Pioneer

AVマルチチャンネルアンプ

VSX-S500

各部の名称

接続

基本設定

再生

応用設定

困ったとき

付録

インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

このたびは、パイオニア製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。
なお、上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

このたびは、パイオニア製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」（→ 40 ページ）は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」は、「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

もくじ

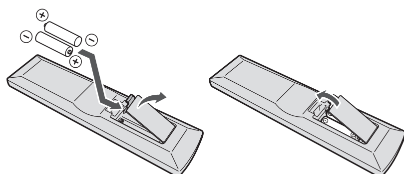
はじめに

付属品を確認する

以下の付属品があることを確認してください。

- セットアップ用マイク
- リモコン
- 単4形乾電池（動作確認用）×2
- AMループアンテナ
- FMアンテナ
- 電源コード
- 保証書
- 取扱説明書（本書）

リモコンに電池を入れる



本機に付属の電池は動作確認用のため、短期間で寿命となることがあります。電池を交換するときは、長期間使用可能な市販のアルカリ電池をお勧めします。

重要

電池を誤って使用すると液漏れや破裂の危険があります。次の注意を守ってください。

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
- 電池を直射日光の強いところや、炎天下の車内・ストーブの前などの高温の場所で使用・放置しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂、発火の原因になります。また、電池の性能や寿命が低下することがあります。

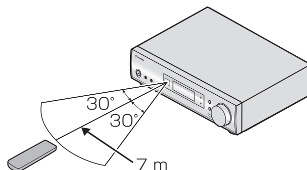
リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。

リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作できない場合があります。

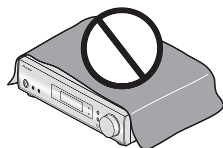
リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。

赤外線を出す機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用した他のリモコンを使用すると、本機が誤動作することがあります。逆に本機のリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。



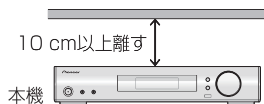
設置について

放熱のため、本機の上に物を置いたり、布やシートなどをかぶせた状態でのご使用は絶対におやめください。異常発熱により故障の原因となる場合があります。



注意

本機を設置する場合には、壁から5 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から10 cm以上、背面から5 cm以上、側面から5 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



本機の設定の流れ

本機は多くの機能や端子を装備した本格的なAVアンプですが、以下の手順で設定をするだけで簡単にホームシアターを楽しむことができます。

手順の色は、以下の意味を表しています。

必ず行う手順

必要に応じて行う手順



1 スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ（→6ページ）

↓

2 スピーカーを接続する（→7ページ）

↓

3 機器を接続する（→9ページ）

- 再生機器とテレビの接続について（→9ページ）
- テレビやブルーレイディスクプレーヤーを接続する（→10ページ）
- 電源コードをつなぐ（→14ページ）

↓

4 電源を入れる

↓

5 スピーカーシステムの設定（→27ページ）

（スピーカー Bやフロントバイアンプ、サラウンドバックスピーカーを接続する場合）

プリアウト端子の設定（→29ページ）

（サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続する場合）

オーディオリターンチャンネルの設定（→31ページ）

（HDMIで接続したテレビがオーディオリターンチャンネルに対応している場合）

↓

6 スピーカーの自動設定を行う（→15ページ）

↓

7 本機から音を出す（→16ページ）

- iPodをつないで再生する（→17ページ）
- USBメモリーを再生する（→18ページ）
- ネットワークで音楽を聴く（→19ページ）
- BLUETOOTHアダプターを使用してワイヤレスで音楽を楽しむ（→21ページ）
- ラジオ放送を聴く（→22ページ）
- リスニングモードを選ぶ（→23ページ）

↓

8 さまざまなサウンドの設定をする

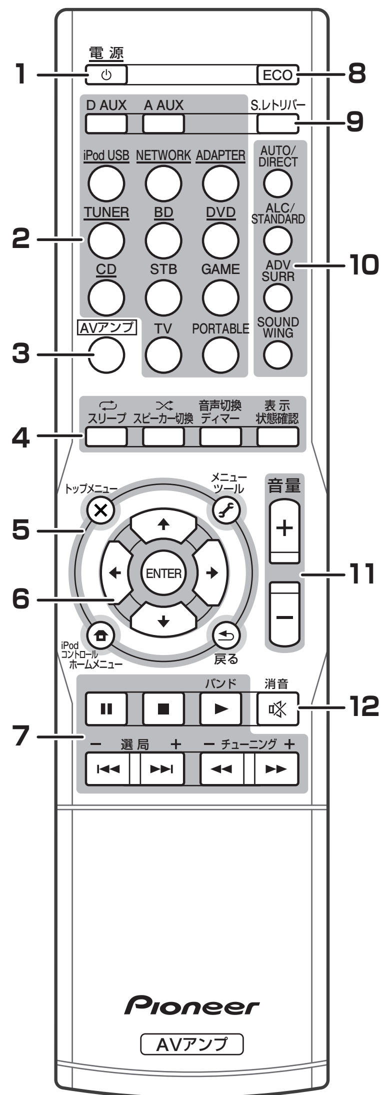
- 最適な設定でサウンド再生する（→24ページ）（サウンドレトリバー機能、UP MIX機能）
- オーディオ調整機能を使う（→25ページ）

ホームメニューで本機の設定を行う（→27ページ）

- 聴感によるスピーカーの設定（→27ページ）
- アナログビデオ入力端子の設定（→29ページ）
- 自動電源オフの設定（→30ページ）
- HDMIによるコントロール機能（→31ページ）

各部の名称

リモコン



1　電源⏻
本機の電源をオン/オフ(スタンバイ)にします。

2　入力切り換えボタン
本機の入力を切り換えます。(→16ページ)

アンダーラインが付いている入力を選ぶと、リモコンでその入力に対応したパイオニア製の他機器を操作できるようになります。

- 他機器操作のリモコンコードを変更することはできません。

3　AVアンプ
リモコンを本機の操作モードに切り換えます。また、ホームメニュー設定などを行うときに使用します。

4　アンプ操作ボタン
以下のアンプ操作はAVアンプボタンを押してから行います。

スリープ
スリープタイマーを設定します。30分、60分、90分の中から設定した時間が経過すると、本機の電源がオフ(スタンバイ)になります。設定後に**スリープ**ボタンを押すと、タイマーの経過時間を確認できます。

スピーカー切換
音声を出力するスピーカー端子を切り換えます(→7ページ)。

ディマー
フロントパネル表示部の明るさを切り換えます。

状態確認
本機の表示を切り換えます。(選択している入力によっては、プリアウト設定やUP MIX設定の内容を確認できます。)

以下のチューナー操作は**TUNER**ボタンを押してから行います。

表示
記憶させた放送局の名前を表示します(→22ページ)。

以下のプレーヤー操作は**BD**や**DVD**ボタンを押してから行います。

音声切換
ブルーレイディスクやDVDの音声を切り換えます。

表示
ブルーレイディスクやDVDのディスク情報を表示します。

5　アンプ/他機器操作・設定ボタン
以下のアンプ操作はAVアンプボタンを押してから行います。

ツール
本機のサラウンド効果の設定などを行います(→25ページ)。

ホームメニュー
ホームメニュー画面を表示して本機の各種設定を行います(→27ページ)。

戻る
本機のホームメニュー設定や各種メニュー画面で1つ前の画面に戻ります。

以下のチューナー操作は**TUNER**ボタンを押してから行います。

ツール
記憶させた放送局を呼び出したり、名前を変更する時に使用します(→22ページ)。

以下のプレーヤー操作は**BD**や**DVD**ボタンを押してから行います。

トップメニュー
ブルーレイディスクなどのトップメニューを表示します。

メニュー
DVDなどのメニュー画面を表示します。

ホームメニュー
ホームメニュー画面を表示します。

戻る
メニュー画面で1つ前の画面に戻ります。

以下のiPod操作は**iPod USB**ボタンを押してから行います。

iPodコントロール
iPodの操作を本機側とiPod側とで切り換えます(→17ページ)。

6　⬆⬇⬅➡/ENTER
本機のホームメニュー設定などの操作に使用します。また、⬆⬇はラジオの放送局を合わせるために、⬅➡は記憶した放送局の呼び出しに使用します。

7　他機器操作ボタン
▶、■などのボタン操作は入力切り換えボタンで操作する機器を選択してから行います。

以下のチューナー操作は**TUNER**ボタンを押してから行います。

バンド
AMとFM STEREO(ステレオ)、FM MONO(モノラル)を切り換えます(→22ページ)。

選局 +/−
記憶した放送局の呼び出しに使用します。

チューニング +/−
ラジオの放送局を合わせるために使用します。

8　ECO
本機をエコモードに切り換えます(→23ページ)。

9　S.レトリバー
サウンドレトリバー機能のオン/オフを切り換えます(→24ページ)。

10 リスニングモードボタン

AUTO/DIRECT
オートサラウンド再生やダイレクト再生に切り換えます(→23ページ)。

ALC/STANDARD
サラウンド再生やオートレベルコントロールモードに切り換えます(→23ページ)。

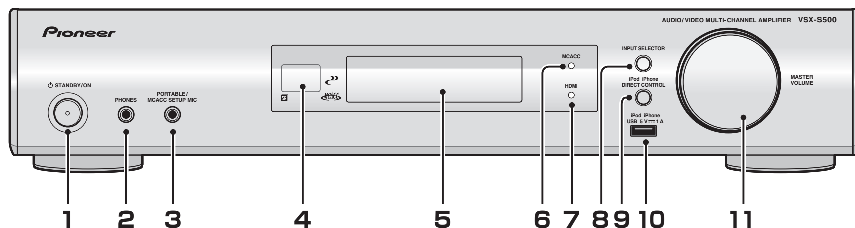
ADV SURR
アドバンスドサラウンド再生やフロントサラウンド・アドバンス再生に切り換えます(→23ページ)。

SOUND WING
サウンドウイングモードに切り換えます(→23ページ)。

11 音量+/−
本機の音量を調節します(→16ページ)。

12 消音
消音します。もう一度押すと解除されます。

フロントパネル



1　⏻ STANDBY/ONボタン
本機の電源をオン/オフ(スタンバイ)にします。

2　PHONES端子
ヘッドホンを接続します(→17ページ)。

3　PORTABLE/MCACC SETUP MIC端子
携帯音楽プレーヤーなどを接続して、本機で音楽を楽しめます。
また、スピーカーの自動設定を行うときに、付属のセットアップ用マイクを接続します(→15ページ)。

4　リモコン信号受光部
「リモコンの操作範囲」をご覧ください(→3ページ)。

5　表示部
「ディスプレイ」をご覧ください(→右記)。

6　MCACCインジケーター
アコースティックキャリブレーションEQをオンにしているときに点灯します(→25ページ)。

7　HDMIインジケーター
HDMI対応機器と接続処理中に点滅し、接続が完了すると点灯します(→14ページ)。

8　INPUT SELECTORボタン
本機の入力を切り換えます(→16ページ)。

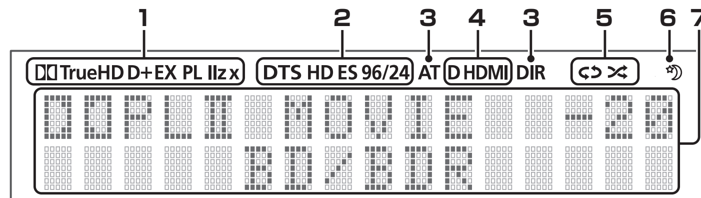
9　iPod iPhone DIRECT CONTROLボタン
本機の入力がiPodに切り換わり、iPodの各種操作がiPod本体でできるようになります(→17ページ)。

10 iPod iPhone USB端子
iPodまたはマスストレージクラスに対応したUSBメモリーを接続して再生することができます(→13、14ページ)。

11 MASTER VOLUMEダイヤル
音量を調節します。

⚠ 注意
製品の仕様により、本体部やリモコン(付属の場合)のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ(遮断装置)に容易に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

ディスプレイ



1　ドルビーデジタルインジケーター

DD D
ドルビーデジタル信号が入力されているときに点灯します。

DD TrueHD
ドルビー TrueHD信号が入力されているときに点灯します。

DD D+
ドルビーデジタルプラス信号が入力されているときに点灯します。

EX
ドルビーデジタルサラウンドEXデコードを行っているときに点灯します。

PLII(x/z)
ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIxまたはドルビープロロジックIIzデコードを行っているときに点灯します。

2　DTSインジケーター

DTS
DTS信号が入力されているときに点灯します。

HD
DTS-EXPRESSまたはDTS-HD信号が入力されているときに点灯します。

ES
DTS-ESデコードを行っているときに点灯します。

96/24
DTS 96/24信号が入力されているときに点灯します。

3　リスニングモードインジケーター

AT
オートサラウンドモード選択時に点灯します(→23ページ)。

DIR
リスニングモードでDIRECTまたはPURE DIRECTモードが選択されているときに点灯します(→23ページ)。

4　音声信号インジケーター

D
デジタル音声信号を選択しているときに点灯します。選んだ入力にデジタル信号が入力されていないときは点滅します。

HDMI
HDMI信号を選択しているときに点灯します。選んだ入力にHDMI信号が入力されていないときは点滅します。

5　iPod/USBインジケーター

リピート再生中に点灯します。

シャッフル再生中に点灯します。

6　スリープタイマーインジケーター
スリープタイマー設定時に点灯します(→4ページ)。

7　キャラクター表示部
通常は上段にリスニングモードと音量、下段に入力が表示されますが、操作時や各種設定時は異なります。

スピーカーの接続

スピーカーの配置／使用パターンを選ぶ

本機はさまざまなサラウンドシステムに対応しており、お手持ちのスピーカーの数にあわせて最適なシステムを構築することができます。

- フロントスピーカー左右(L/R)は必ず接続してください。

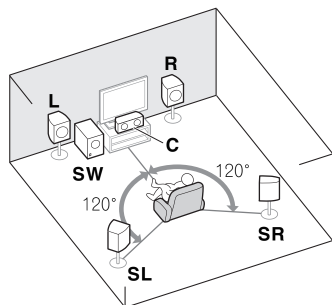
以下のプラン【A】～【D】の中からサラウンドシステムを選んでください。

重要

- プラン【A】以外のシステムを選んだ場合は、スピーカーシステムの設定が必要です(→27ページ)。
- パイオニア製パッシブサブウーファーS-SLW500はプラン【A】およびプラン【B】のみ接続できます。プラン【C】およびプラン【D】でサブウーファーを接続する場合は、アンプ内蔵タイプを使用し、本機のPREOUT SUBWOOFER端子に接続してください。

【A】5.1chサラウンドシステム

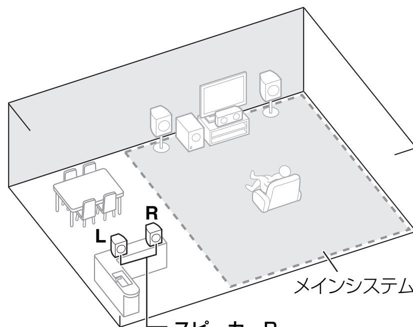
スピーカーシステムの設定：Normal（工場出荷時の設定）



フロント左右(L/R)、センター（C)、サラウンド左右(SL/SR)の各スピーカーと、サブウーファー(SW)を接続して、臨場感あふれる5.1chのサラウンドサウンドが楽しめます。

【B】3.1chサラウンドシステム & スピーカー B接続

スピーカーシステムの設定：Speaker B

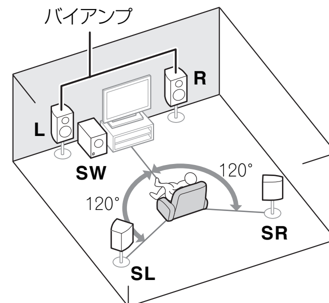


3.1chサラウンドシステム(メインシステム)のほかに、スピーカー Bシステムを接続して、メインシステムと同じ音声をステレオで楽しむことができます。

- スピーカー Bを使用しているときは、メインシステムではフロント/センタースピーカーおよびサブウーファーのみ音が出ます。
- スピーカー Bではサブウーファーを接続できませんので、フルレンジスピーカーを使用してください。

【C】4.1chサラウンドシステム & フロントバイアンプ接続

スピーカーシステムの設定：Bi-Amp

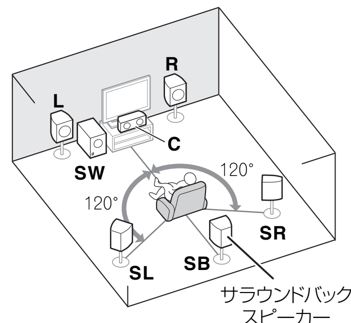


フロントスピーカーを高音質(バイアンプ)で再生可能な4.1chサラウンドシステムです。

- フロントバイアンプ接続を行った場合、フロント/サラウンドスピーカーおよびサブウーファーのみ音が出ます。
- フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合は、バイアンプ対応スピーカーが必要です。

【D】6.1chサラウンドシステム（サラウンドバック）

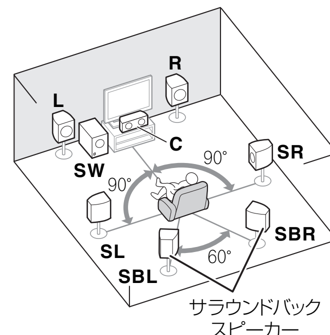
スピーカーシステムの設定：SB Single

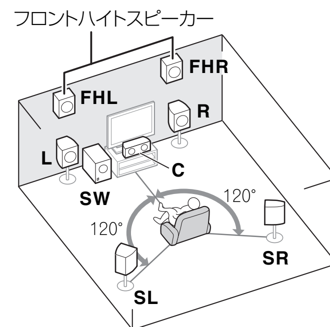


プラン【A】にサラウンドバックスピーカー（SB）1台を追加し、後方の臨場感が増した6.1chサラウンドシステムです。この接続方法の場合、サブウーファーはアンプ内蔵タイプをご使用ください。

サラウンドスピーカーまたはフロントハイトスピーカーを追加する

サラウンドバックスピーカー（SBL/SBR)またはフロントハイトスピーカー（FHL/FHR)をプラン【A】またはプラン【C】に追加して、最大7.1chでサラウンド再生することができます。(プラン【C】は最大6.1chまでです。)





重要

- サラウンドバック(左/右)またはフロントハイトスピーカーを接続するには、別途外部アンプが必要です。詳しくは、8ページをご覧ください。

スピーカー配置について

スピーカー配置で音質に影響のあるポイントについて、以下の点を参考にしてください。

- フロント左右スピーカーは、それぞれテレビから等距離になるように配置してください。
- ブラウン管テレビの近くにスピーカーを配置する場合は、防磁型のスピーカーを使用するか、スピーカーをテレビから離してください。
- センタースピーカーは、テレビの音をより自然に再生するために、テレビの上か下に配置してください。また、視聴位置からセンタースピーカーの距離は、フロントスピーカーの距離よりも近くならないようにしてください。
- サラウンドスピーカーは、視聴位置での耳の高さから60 cm～90 cm上方に、少し下向きに配置してください。また、左右のスピーカーが向き合わないように設置してください。
- 7.1チャンネル(サラウンドバック)システムのスピーカー配置例で、サラウンドスピーカーをリスニングポジションの真横に配置できないときは、本機のUP MIX機能をOFFにしてサラウンドサウンドを補正します。詳しくは「UP MIX機能を使う」(→24ページ)をご覧ください。
- フロントハイトスピーカーは、フロントスピーカーの真上1 m以上の高さに設置してください。

⚠ 注意

センタースピーカーをテレビの上に置くときは必ず適切な方法で固定してください。地震などの振動によりスピーカーが落下して人がけがをしたり、物を破損する原因となります。

重要

- S-HV500-LRやS-HV600Bなどのスピーカーは設置方法が指定されていることがあります。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書ご覧ください。
- **サラウンドバック(左/右)またはフロントハイトスピーカーを接続する場合は、別途外部アンプが必要です。** 外部アンプを本機のPRE OUT SURR BACK/FRONT HEIGHT端子に接続し、外部アンプにサラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続します(→8ページ)。また、プリアウト端子の設定を、サラウンドバックスピーカーを接続した場合は「SURR.BACK」に、フロントハイトスピーカーを接続した場合は「HEIGHT」にしてください(サラウンドバックまたはフロントハイトのいずれのスピーカーも接続しない場合は、プリアウト端子の設定は関係しません)(→29ページ)。

スピーカーを接続する

本機は最低2本のスピーカー（図のフロントスピーカー)が接続されていれば音を再生できますが、センター/サラウンドスピーカーとサブウーファーを接続して5.1 chサラウンドシステムにすることをお勧めします。なお、サブウーファーを使用しないときは、フロントスピーカーの設定を「LARGE」に設定してください(「スピーカーの設定を行う」(→27ページ)をご覧ください)。

スピーカー端子について、視聴位置の右側にあるスピーカーはR端子に、左側にあるスピーカーはL端子につなぎます。接続するときは、スピーカーの極性(＋/－)と本機の極性(＋/－)を必ず合わせてください。

スピーカーB端子に2本のスピーカーを接続して、他の部屋でステレオ音声を聞くこともできます。スピーカー端子の切り換えについては、右記をご覧ください。

- スピーカーは、インピーダンスが4 Ω～16 Ωのスピーカーをご使用ください。

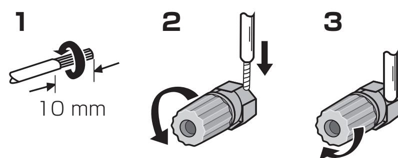
すべての接続が終わってから、最後に電源コードをコンセントに差し込んでください。

スピーカーコードを接続する

1 スピーカーコードの先端をねじる。

2 スピーカー端子を緩め、スピーカーコードを差し込む。

3 スピーカー端子をしめる。



スピーカー端子について

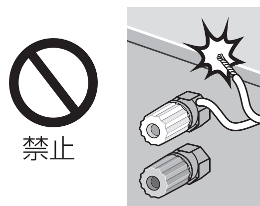
スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじり、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がリアパネルに接触したり、芯線どうしが接触すると保護回路が働いて電源が切れる(スタンバイ状態になる)ことがあります。

接続には市販のスピーカーコードとオーディオコードをご使用ください。音質をよくするためには、より高品質なスピーカーコードをご使用ください。

⚠ 注意

スピーカー端子には非常に高い電圧が出力されます。感電の危険を避けるため、スピーカーを接続する前に必ず電源コードを抜いてください。

■ スピーカーケーブルの芯線を本体に接触させない



スピーカーケーブルの芯線が本体金属部に触れると､スピーカーを破損し､発煙･発火になる恐れがあります。

スピーカーケーブルは確実に差し込み､簡単に抜けないことを確認してください。

サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続する

本機のPRE OUT SURR BACK/FRONT HEIGHT端子にアンプを接続し、そのアンプとサラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続することで、7.1 ch再生を行うことができます。

- サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続した場合は、プリアウト端子の設定が必要です(→29ページ)。
- サラウンドバックスピーカーを1本だけ接続するときは、サラウンドバックスピーカーをアンプのL側のスピーカー端子に接続し、本機のL(Single) 端子とアンプのL端子を接続します。

スピーカー端子の切り換え

音声を出力するスピーカー端子を3種類の中から切り換えることができます。

1 スピーカー切換ボタンを押して、スピーカー端子を切り換える。

ボタンを押すたびに、以下のようにスピーカー端子が切り換わります。

- SP:A ON － スピーカー端子Aに接続されたスピーカーおよびPRE OUT SURR BACK/FRONT HEIGHT端子と接続したアンプのスピーカーから音が出ます(サラウンド再生が可能です)。
- SP:B ON － スピーカー端子Bに接続されたスピーカーから音が出ます(ステレオ再生となります)。
- SP:A+B ON － 上記AとBの音声が同時に出力されます。STEREOまたはSTEREO ALCモードを選択しているときは、マルチチャンネル音声はダウンミックスされてAおよびBからステレオ音声で出力されます。
- SP: OFF － すべてのスピーカーから音は出ません。

お知らせ

- SP:B ONおよびSP:A+B ONの設定は、スピーカーシステムの設定(→27ページ)をSpeaker Bにしているときのみ選択できます。
- サブウーファーからの音声出力は、スピーカーの設定(→28ページ)の設定によって出るときと出ないときがあります。また、SP:B ONを選択しているときはLFEチャンネルはダウンミックスされないため、サブウーファーからは音が出ません。

スピーカーの接続

一般的なサラウンド接続（プラン【A】/【B】/【D】）

フロント右
スピーカー
R

センタースピーカー
C

フロント左
スピーカー
L

プラン【A】または【B】:
パッシブサブウーファー
（S-SLW500）SW
プラン【D】:
サラウンドバックスピーカーSB

ME IN
OUT
COAXIAL
CD IN
OPTICAL
TV IN DIGITAL AUX IN
(ANALOG AUX)
ANALOG AUX
SURR BACK/ FRONT HEIGHT
AUDIO
(Single)
MONITOR OUT
IN
SUBWOOFER
PRE OUT
A FRONT R L
CENTER
SUBWOOFER/ SURR BACK
SURROUND/ B R L
R Bi-amp L
SPEAKERS

白
赤

LINE LEVEL INPUT

アンプ内蔵
サブウーファー
SW

プラン【A】または【D】: サラウンドスピーカー
プラン【B】: スピーカーシステムB

SR または
スピーカーB右

SL または
スピーカーB左

SBR/FHR
SBL/FHL

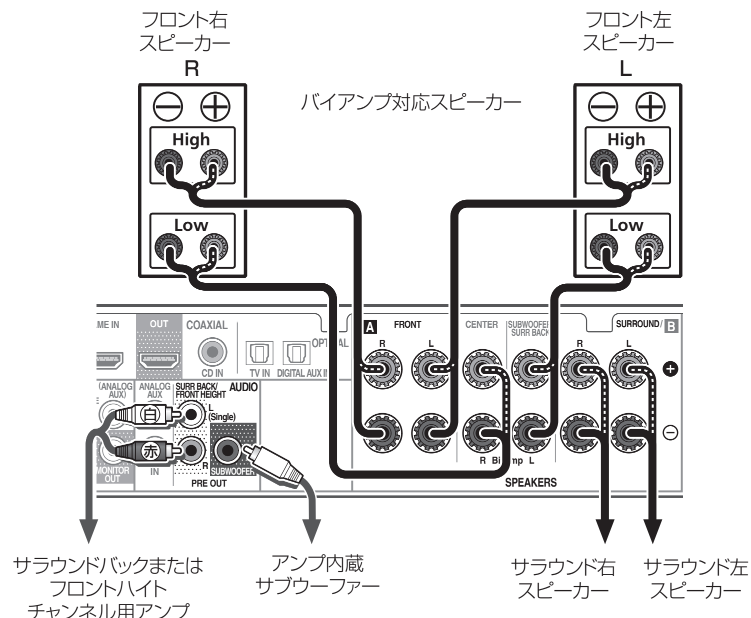
サラウンドバックまたは
フロントハイトスピーカー
（プラン【A】または【D】のみ）

赤
白
右 左
アナログ
音声入力

SPEAKER R
SPEAKER L

サラウンドバックまたはフロントハイト
チャンネル用アンプ

フロントバイアンプ接続（プラン【C】）



重要

- SPEAKERS SUBWOOFER端子は、パイオニア製パッシブサブウーファー S-SLW500接続用の専用端子です。その他のサブウーファーを接続する場合は、アンプ内蔵タイプを使用し、PREOUT SUBWOOFER端子に接続してください。
- パッシブサブウーファー S-SLW500とアンプ内蔵サブウーファーはどちらか一方のみ接続してください。両方接続すると、正しいサウンドで再生されません。

機器の接続

機器の接続を行う前に

重要

- 機器の接続を行うときは、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 電源コードを抜くときは、必ず本機の電源を切ってから抜いてください。

再生機器とテレビの接続について

本機はコンポジット(ビデオ)端子で入力した映像信号を変換してHDMI端子から出力できるビデオコンバーターを搭載しています。

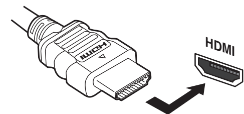
- HDMI端子から入力した映像信号をコンポジット(ビデオ)端子から出力することはできません。テレビにHDMI入力端子が無い場合は、再生機器とテレビの両方をコンポジット(ビデオ)で本機に接続してください。
- 入力された信号によっては、ビデオコンバーターが働かずに映像が出力されないことがあります。その場合はビデオコンバーターの設定(→29ページ)をOFFにして、再生機器とテレビの両方を同じタイプのケーブルで本機に接続してください。

接続ケーブルについて

ケーブルを本機の上や近くに置かないよう注意してください。ケーブルが本機の上に置かれていると、本機の電源装置から磁場が生じて、スピーカーから雑音が発生することがあります。

HDMIケーブル

1本のケーブルで映像信号と音声信号の両方を伝送します。テレビと再生機器を、本機を経由して接続する場合は、両方の機器をHDMIケーブルで接続してください。



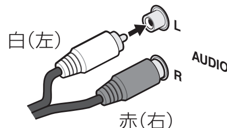
- HDMI端子に接続するときはケーブル端子の向きを合わせて接続します。

お知らせ

- 「オーディオ調整機能を使う」のHDMI設定(→26ページ)でTHROUGHを選択しているときは、HDMI対応機器の音声はテレビから出力されます(本機からは音声は出力されません)。
- 映像信号がテレビの画面に表示されない場合は、HDMI対応機器やテレビの解像度の設定を調整してみてください。なお、機器(テレビゲーム機など)によっては解像度の設定ができないことがあります。このときは(アナログの)ビデオケーブルで接続してください。
- HDMIの映像信号が、480i、480p、576iまたは576pのときは、マルチチャンネルPCM音声およびHD音声を受信することはできません。

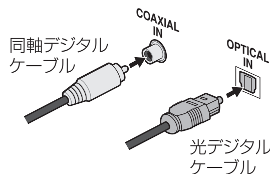
アナログオーディオケーブル(赤/白)

アナログのオーディオ機器を接続するには、オーディオケーブルを使用します。一般的な赤／白プラグのケーブルで、赤いプラグをR(右)端子に、白いプラグをL(左)端子に接続します。



デジタルオーディオケーブル

デジタル機器と本機を接続するには、市販の同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルを使用します。

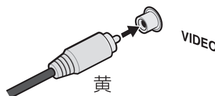


お知らせ

- 光デジタルケーブルを接続するときは、端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。
- 光デジタルケーブルは、急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が15 cm以上になるようにしてください。
- 同軸デジタルケーブルは、一般的なビデオケーブルで代用できます。

ビデオケーブル(黄)

一般的な映像用ケーブルで、黄色の映像端子(コンポジット)に接続します。



テレビやブルーレイディスクプレーヤーなどを接続する

HDMIケーブルによる接続

テレビと再生機器(ブルーレイディスクプレーヤーやDVDプレーヤーなど)の両方にHDMI端子がある場合は、市販のHDMIケーブルを使用して本機に接続します。

テレビの音声を本機で聴く場合、以下の接続や設定が必要です。

- お手持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応していない場合は、図のようにオーディオケーブルで音声の接続を行ってください。HDMIケーブルのみの接続では、テレビの音声を本機で聞くことができません。
- お手持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応している場合は、HDMIケーブルを通じてテレビの音声を本機に入力できます。この場合、HDMI設定のARCをONに設定してください(→31ページ)。

HDMIについて

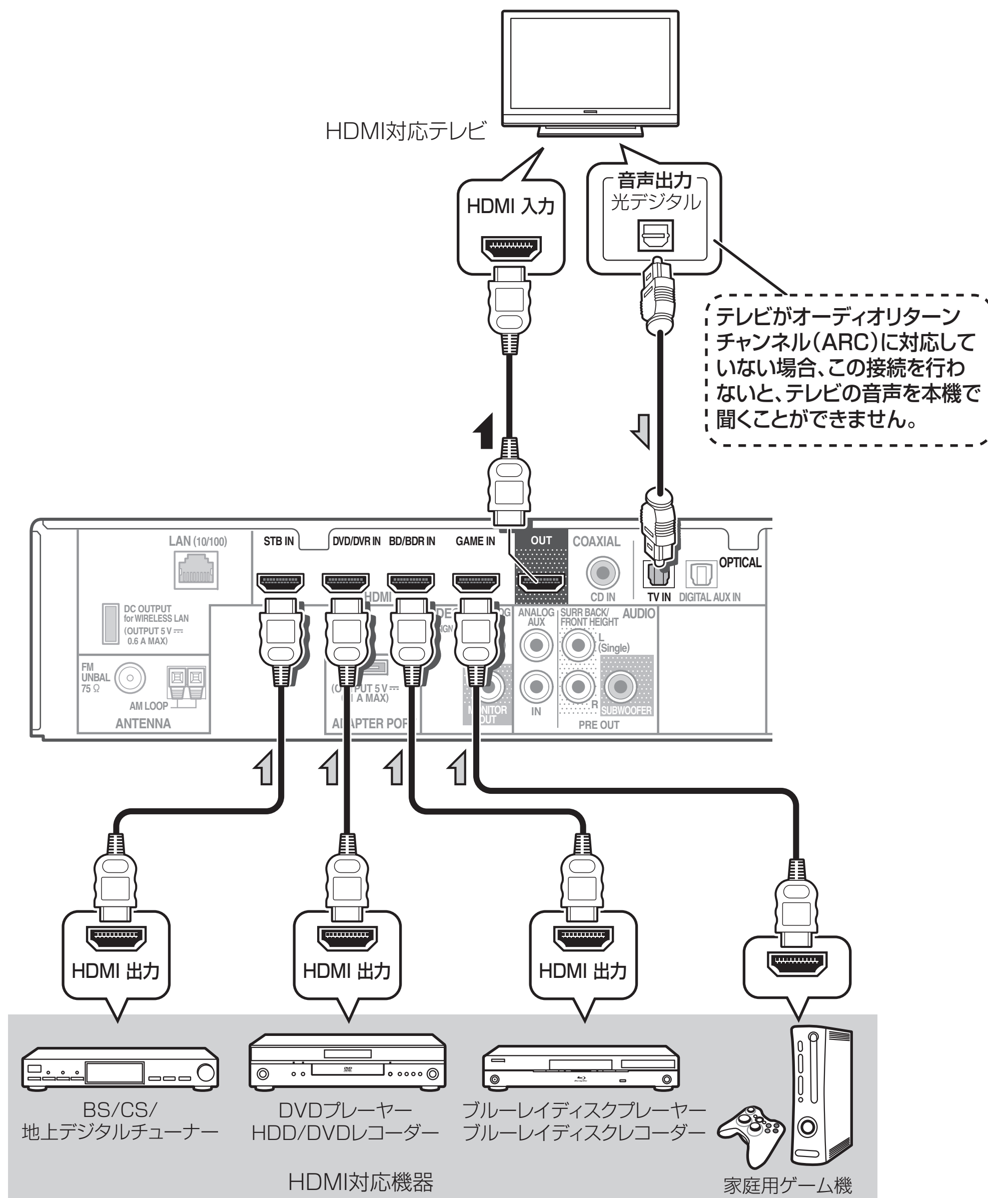
HDMI(High-Definition Multimedia Interface)とは1本のケーブルで映像と音声を受信するデジタル伝送規格です。ディスプレイ接続技術のDVI(Digital Visual Interface)を家庭向けのオーディオ機器用にアレンジしたものであり、高い帯域幅のデジタル内容保護(HDCP)を実現した次世代テレビ向けのインターフェース規格です。

本機では、HDMI対応機器とHDMI対応のフラットテレビなどを接続することで、圧縮されていないデジタル映像と音声(ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、またはリニアPCM)を1本のケーブルで伝送できます。ドルビーTrueHDやDTS-HD Master Audioなどのロスレスデジタル音声フォーマットにも対応しています。接続にはHDMIケーブルをお使いください。

本機はHDMI機器との接続を目的として設計されています。DVI機器に接続した場合、DVI機器によっては正常に動作しない場合があります。

本機は高画質規格のDeep Color出力やx.v.Colorの伝送も可能です。(x.v.Colorはソニー株式会社の商標です)。

HDMI、HDMI ロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の米国とその他の国における商標または登録商標です。



再生機器にHDMI出力がない場合の接続

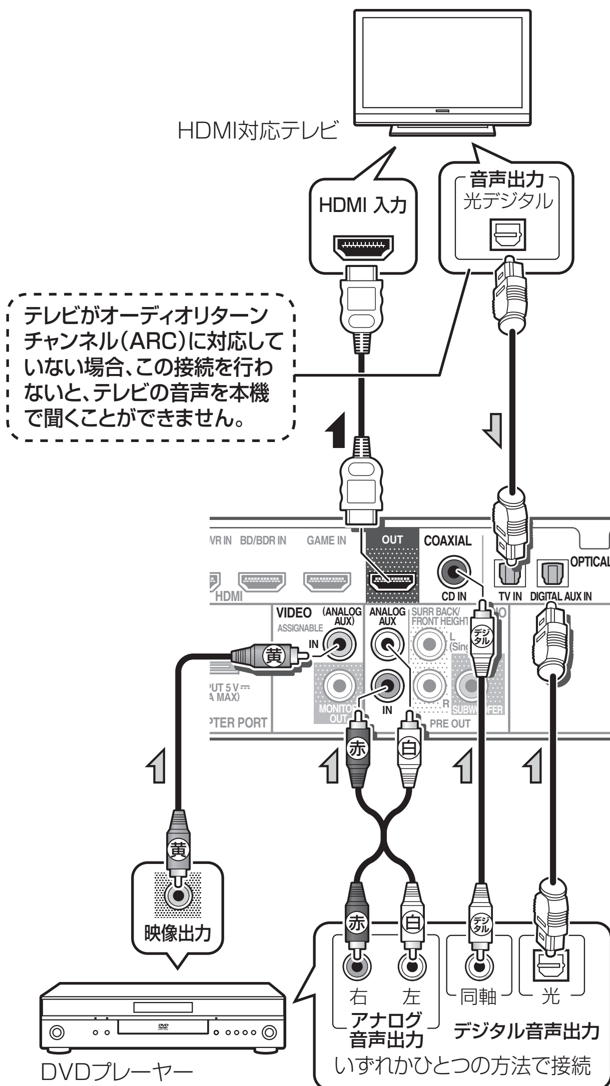
テレビにHDMI入力端子があり、再生機器にHDMI出力端子がない場合は、テレビのみHDMIで接続します。本機のビデオコンバーター機能により、コンポジットで入力された映像信号をHDMIでテレビに出力できます。

テレビの音声を本機で聴く場合、以下の接続や設定が必要です。

- お手持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応していない場合は、図のようにオーディオケーブルで音声の接続を行ってください。HDMIケーブルのみの接続では、テレビの音声を本機で聞くことができません。
- お手持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応している場合は、HDMIケーブルを通じてテレビの音声を本機に入力できます。この場合、HDMI設定のARCをONに設定してください(→31ページ)。

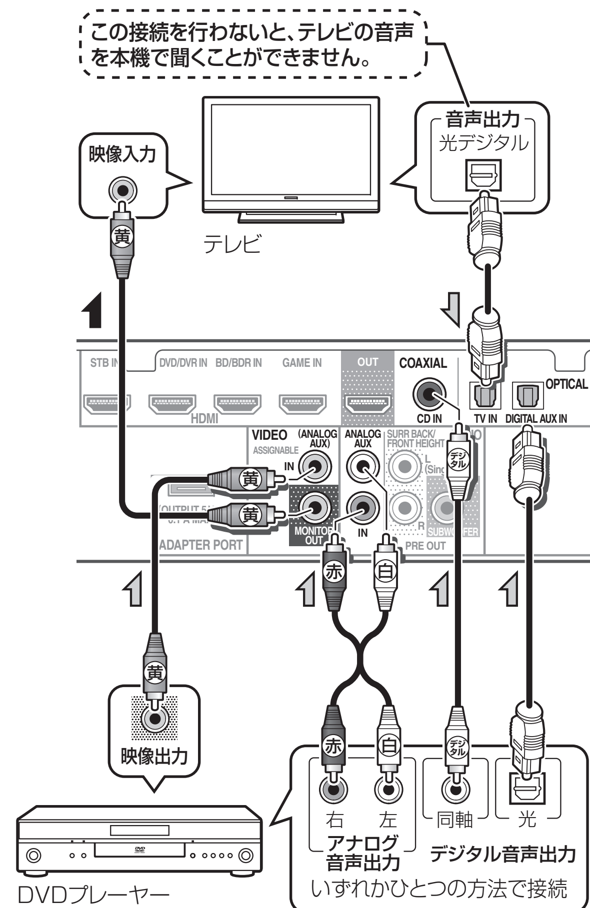
お知らせ

- 再生機器を同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルで接続した場合は、CDまたはDIGITAL AUX入力を選んでください(→16ページ)。



テレビにHDMI端子がない場合の接続

テレビにHDMI端子がない場合は、それぞれの機器を音声および映像ケーブルで接続します。



お知らせ

- 再生機器を同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルで接続した場合は、CDまたはDIGITAL AUX入力を選んでください(→16ページ)。

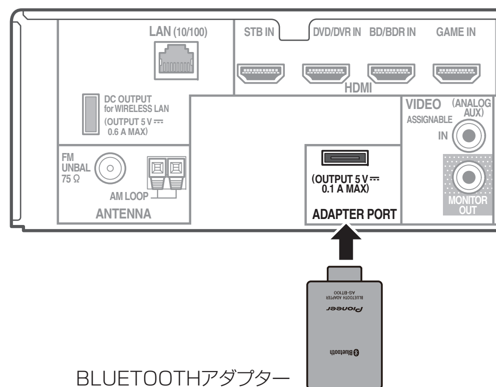
BLUETOOTHアダプターを接続する

別売りのBLUETOOTHアダプター AS-BT100またはAS-BT200を本機に接続するだけで、*Bluetooth* 機能搭載機器(携帯電話、デジタル音楽プレーヤーなど)の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。

Bluetooth 機能搭載機器の音楽の再生については、「BLUETOOTHアダプターを使用してワイヤレスで音楽を楽しむ」(→21ページ)をご覧ください。

重要

- BLUETOOTHアダプターを本機に接続した状態で、本機を移動させないでください。破損や接触不良の原因となります。



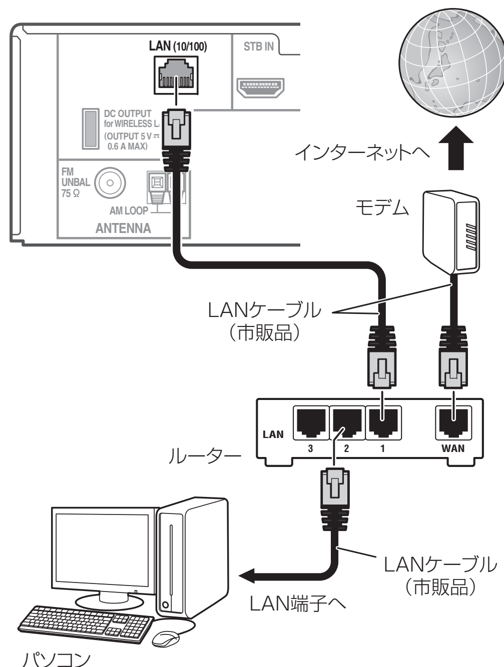
お知らせ

- 本機で*Bluetooth* 機能搭載機器の音楽を再生するには、*Bluetooth* 機能搭載機器がプロファイル：A2DPに対応している必要があります。
- すべての*Bluetooth* 機能搭載機器との接続動作を保証するものではありません。

LAN端子でネットワークに接続する

LAN端子を使ってネットワークに接続することで、インターネットラジオを聴くことができます。また、同一ネットワーク上にあるパソコンなどに保存されている音楽ファイルを、本機で再生することができます。

- インターネットラジオを聴くには、インターネットサービスを提供しているプロバイダーとの契約・料金が別途必要です。



本機のLAN端子とルーター（DHCPサーバー機能付きなど）のLAN 端子をストレートLANケーブル(CAT-5以上)で接続します。

- ルーターのDHCPサーバー機能をオンにします。ルーターにDHCPサーバー機能がない場合はネットワークを手動で設定する必要があります。詳しくは「ネットワークの設定を行う」(→20ページ)をご覧ください。

LAN端子の仕様

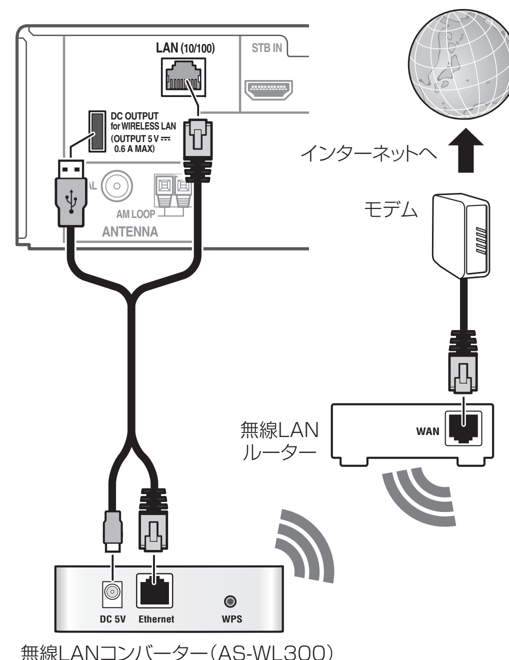
- LAN（10/100)端子：1系統、10BASE-T/100BASE-TX

お知らせ

- 弊社ではお客様のネットワーク接続環境、接続機器に関連する通信エラーや不具合について、一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。プロバイダーまたは各接続機器のメーカーにお問い合わせください。
- 外部コンテンツのアクセスには高速インターネットへの接続が必要であり、プロバイダへの登録や契約が必要となります。第三者が提供するコンテンツのサービスは、予告なく、変更、中断、中止される可能性があり、パイオニアは、そのような事態に対していかなる責任も負いません。パイオニアは、外部コンテンツの提供サービスの継続や利用可能期間について、いかなる保証もしません。

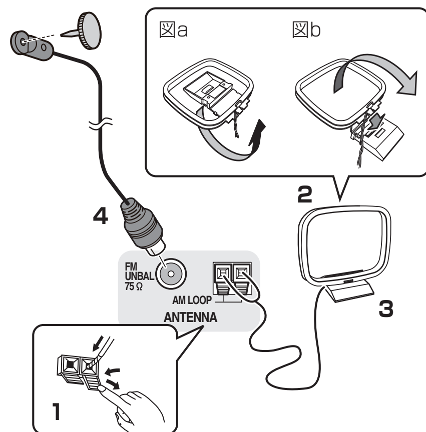
無線LANで接続する

- 別売りの無線LANコンバーター（AS-WL300)を接続して、本機をワイヤレスでネットワークに接続できます。
- 詳しくは、無線LANコンバーターに付属の取扱説明書をご覧ください。



アンテナを接続する

AMループアンテナとFMアンテナを下図のように接続します。受信状態と音質を良好にするには外部アンテナの接続をお勧めします(「外部アンテナを接続する」(→右記)をご覧ください)。



1 端子のツメを開いて付属のAMアンテナコードを確実に差し込み、ツメを閉じて固定する。

2 AMループアンテナを組み立てる。

AMループアンテナは図a～bをご覧になり組み立ててください。

3 受信状態が良くて平らな場所にAMアンテナを設置する。

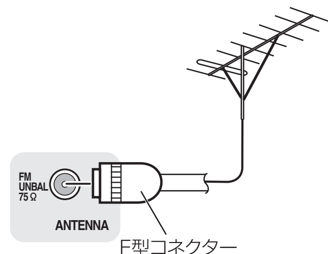
4 付属のFMアンテナをFMアンテナ端子に接続する。

FMアンテナは、受信状態を良好にするために壁や窓枠などに沿って縦方向に十分に伸ばしてください。

外部アンテナを接続する

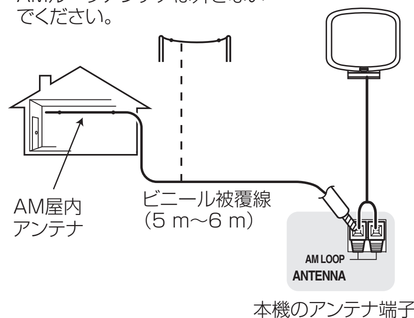
FMの受信感度を上げるために

F型コネクターを使って、屋外用FMアンテナを接続します。



AMの受信感度を上げるために

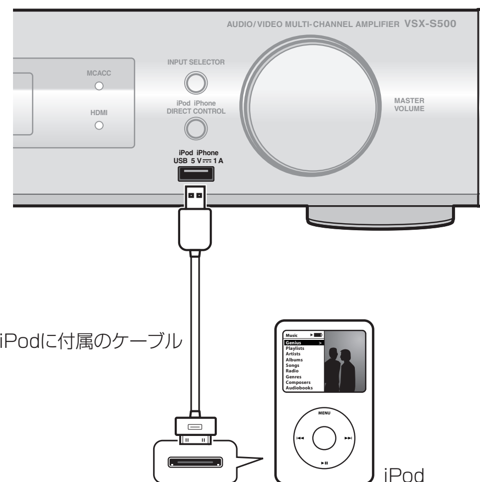
付属のAMループアンテナを接続したまま、5 m～6 mの長さのAM外部アンテナ(ビニール被覆線)をAM LOOP端子に接続します。屋外に設置するときは、受信感度を上げるためアンテナを水平に伸ばして使用してください。



iPodを接続する

iPodを接続して、iPodの音楽を本機で楽しめます。接続にはiPodに付属のケーブルを使用します。

iPodの再生については、「iPodをつないで再生する」(→ 17ページ)をご覧ください。



お知らせ

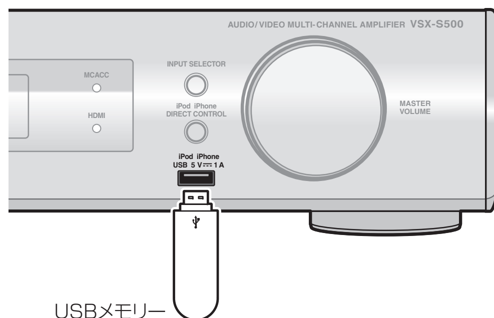
- iPodの接続については、iPodに付属の取扱説明書もご覧ください。

接続が終わったら

USBメモリーを接続する

お手持ちのUSBメモリーを接続して、USBメモリーに記録されている音楽ファイルを本機で再生できます。

USBメモリーの再生については、「USBメモリーを再生する」(→18ページ)をご覧ください。



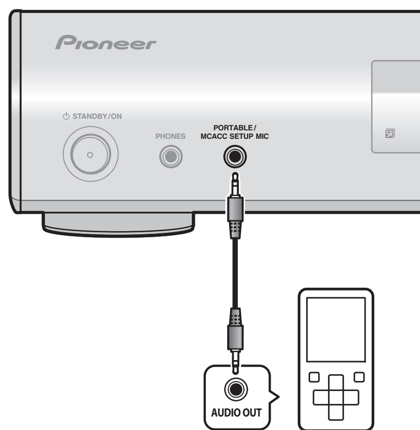
お知らせ

- 本機とパソコンをUSBケーブルで接続して音楽ファイルを再生することはできません。本機が対応しているUSBメモリーは、外付けハードディスクや携帯フラッシュメモリー、マルチカードリーダー、デジタルカメラ、デジタルオーディオ再生機(FAT16、FAT32のフォーマットに対応)などのUSBマスストレージクラスに属する機器です。
- 本機ではすべてのUSBメモリーの再生、および電源の供給を保証できない場合があります。また、本機と接続したことで、USBメモリーのファイルが万一損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。

前面端子に音声機器を接続する

前面端子に音声機器を接続してリモコンのPORTABLEボタンを押すと、本機で簡単に音声を楽しめます。

接続には、市販のステレオミニプラグ付きケーブルを使用します。



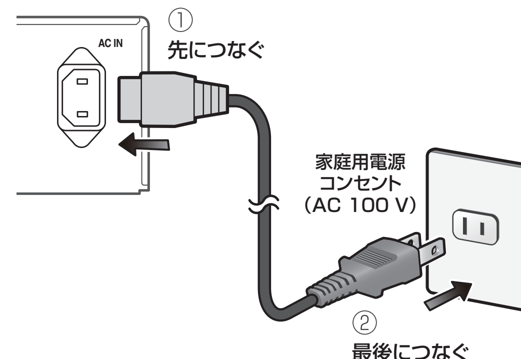
デジタル音楽プレーヤーなど

電源コードをつなぐ

すべての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント(AC 100 V)に接続します。

⚠ 警告

本機の電源コードは着脱式になっていますが、付属しているコード(電流容量10 A、機器側2Pプラグインソケット方式)以外の電源コードはご使用にならないでください。



お知らせ

- 電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源がオフ(スタンバイ)になります。この際、2秒から10秒間、HDMIに関する初期化動作を行います。初期化中はHDMIインジケーターが点滅しますので、点滅が終了してから本機の操作を行ってください。HDMI設定のコントロール機能をOFFにすることで、この処理は行われなくなります(→31ページ)。
- 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。
- 電源コードを抜くときは必ず本機の電源をオフ(スタンバイ)にしてください。

デモ表示を解除する

本機の電源がオンの状態でしばらく操作をしていないときに、フロントパネル表示部にさまざまな表示を行います(デモ表示)。デモ表示はオフにすることができます(→30ページ)。

- スピーカーの自動設定(→15ページ)を行うと、デモ表示は自動的に解除されます。

スピーカーの自動設定を行う（オートMCACC）

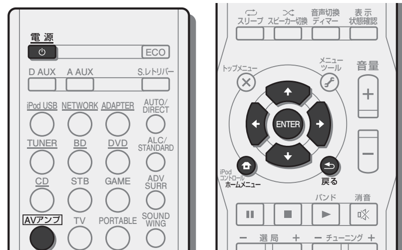
オートMCACC（Multi Channel ACoustic Calibration System）設定では、スピーカーの大きさやリスニングポジションからの距離などを測定し、各スピーカーの出力遅延と出力レベルを調節します。また部屋の暗騒音まで考慮した視聴環境の周波数特性の測定を行い、スピーカーシステム全体の周波数バランスも調節します。設定はスピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップマイクで測定し、解析します。

⚠ 注意

- オートMCACC設定では、テストトーンが大音量で出力されます。

お知らせ

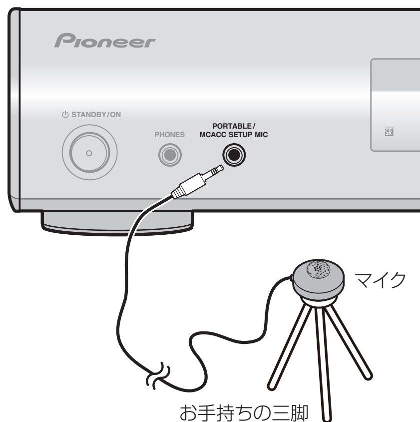
- パイオニア製のスピーカー S-SL100-LR/S-SL100CRやHVTスピーカー（S-HV500-LRなど）を接続しているときは、本機のクロスオーバー周波数を200 Hzに設定してください（→28ページ）。
- 測定中は視聴位置から離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。
- 測定中はできるだけ静かにしてください。
- 測定の途中で音量を下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。
- オートMCACC設定を行うと、それ以前に行ったスピーカーに関する設定は、すべて上書きされます。
- 測定を中断した場合は、それまでの測定内容は確定されません。
- オートMCACC画面のまま3分間放置すると、画面にスクリーンセーバー機能が働きますが、いずれかのボタンを押すことでふたたび同じ画面を表示します。



1 本機とテレビの電源をオンにする。

テレビの入力を、本機と接続した入力に合わせてください。

2 フロントパネルのMCACC SETUP MIC端子にマイクを接続する。

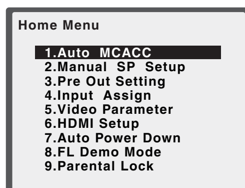


マイクは三脚を使って視聴位置に設置し、耳の高さに合わせます。三脚がないときは、それに代わるものでマイクを設置してください。

- マイクを三脚に固定したら、安定した床の上に設置してください。ソファなどのやわらかい物の上や、テーブルやソファの上など高い場所に設置すると、正しく設定できないことがあります。
- スピーカーと視聴位置（マイク）の間に障害物があると、正確に測定できないことがあります。
- マイクをテレビの近くに置かないでください。

3 リモコンの AVアンプ ボタンを押してから、ホームメニューボタンを押す。

テレビにホームメニュー画面が表示されます。



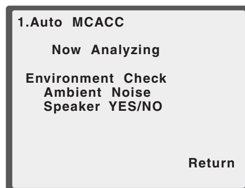
- ⬆/⬇/⬅/➡とENTERボタンで、操作項目を選びます。
- **戻る**ボタンで前の画面に戻ります。
- **ホームメニュー**ボタンでホームメニューを終了します。

アンプ内蔵サブウーファーを接続しているときは、サブウーファーの電源を入れて音量を適度に上げておいてください。また、外部アンプを使用してサラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続しているときは、外部アンプの電源を入れて音量を適度に上げておいてください。

4 ⬆/⬇ボタンで「Auto MCACC」を選んで、ENTERボタンを押す。

オートMCACC設定が開始されます。

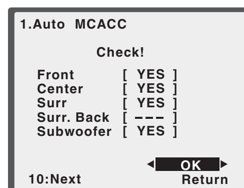
スピーカーシステムの確認のためテストトーンが出力され、測定中を示す画面になります。



- Mic In!と点滅表示した場合は、マイクが正しく接続されていません。MCACC SETUP MIC端子にマイクが接続されているかを確認してください。

5 スピーカーの有り無しを確認する。

測定が終わると、スピーカー有り無しの判定の確認画面が表示されます。10秒間何も操作がないときは自動で手順6へ進み、オートMCACC設定が再開されます。



- Too much ambient noiseといったエラー表示が出たときは、部屋を静かにしてからRETRYを選んでください。詳しくは「オートMCACC設定時のその他の問題」（→16ページ）をご覧ください。

スピーカー有り無し確認画面の見かた：

有無 / スピーカー	接続している	接続していない	規定外の接続
Front フロント左右	YES	ERR	ERR
Front Height フロントハイト左右	YES	- - -	ERR
Center センター	YES	NO	- - -
Surr サラウンド左右	YES	NO	ERR
Surr.Back サラウンドバック左右	YES x 2（2つ接続） YES x 1（1つ接続）	- - -	ERR
Subwoofer サブウーファー	YES	NO	- - -

- フロントハイト左右（Front Height）とサラウンドバック左右（Surr.Back）は、プリアウト端子の設定で選んだスピーカーのみ表示されます。

スピーカーの測定結果が間違っていたときは⬆/⬇ボタンでスピーカーを選んで⬅/➡ボタンで設定を変更します。

エラー（**ERR**）が表示されたときは、マイクやスピーカー接続に問題があるかもしれません。

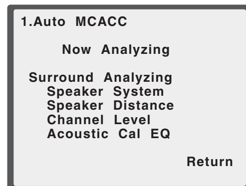
「ERR」表示には次のような種類があります。

- Front：ERR － フロントスピーカーの接続を確認してください。
- Surr：ERR － サラウンドスピーカーの接続を確認してください。
- Surr.Back：ERR － サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーの接続を確認してください。

「RETRY」を選んで再測定しても同じエラーが表示されるときは、電源を切ってからスピーカーの接続を確認してください。

6 ⬆/⬇ボタンで「OK」と表示させてからENTERボタンを押す。

スピーカー出力レベル、スピーカーまでの距離、周波数特性の補正が開始され測定中を示す画面になります。



- 測定中は静かにしてください。この測定には1～3分程度かかります。

7 自動測定が終了するとホームメニュー画面に戻ります。

オートMCACC設定では自動で最適なサラウンド環境を設定しますが、ホームメニューから項目を選んで、各設定を手動で調整することもできます。詳しくは27ページをご覧ください。

お知らせ

- スピーカーの大小判定について、コーンサイズ12 cm程度の同じスピーカーを使っていても、測定時の部屋の環境によっては異なった判定をすることがあります。この場合は「スピーカーの設定を行う」（→28ページ）で手動で設定を変更できます。
- スピーカーまでの距離について、サブウーファーまでの距離が、実際の距離と合わないことがあります。この場合は「スピーカーまでの距離を設定する」（→29ページ）で手動でサブウーファーまでの距離を設定してください。
- スピーカーまでの距離について、サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーまでの距離が実際の距離と合わないことがあります。これはサラウンドバックまたはフロントハイトチャンネル用にご使用の外部アンプがデジタル処理を行うときに発生します。この場合、接続したアンプをあらかじめアナログダイレクトなどのモードに設定してください。アナログダイレクトなどのモードがない場合は、ステレオモードに設定してください。この状態で行った距離補正は正しく行われていますので、特に設定値を変更する必要はありません。

オートMCACC設定時のその他の問題

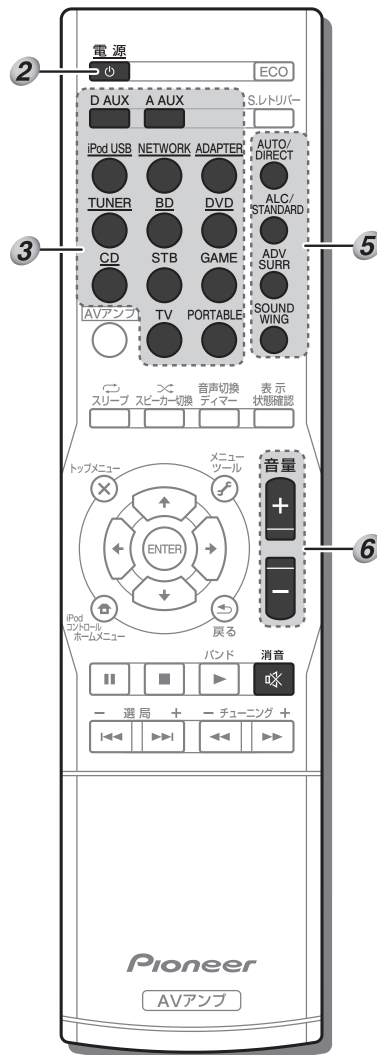
部屋の環境がオートMCACC設定に適していない場合（騒音が大きい、壁の残響が大きい、スピーカーとマイクの間に障害物があるなどの場合）、正しい測定結果を得られないことがあります。測定に影響を与える可能性のある機器（エアコン、冷蔵庫、扇風機など）を確認し、必要に応じてそれらの電源を切ってください。フロントパネルの表示部にメッセージが表示された場合は、その指示に従ってください。

- 旧型のテレビによっては、マイクでの測定に影響を与えるものがあります。その場合は、オートMCACC設定のときだけテレビの電源を切ってください。

再生する

本機から音を出す（基本再生）

本機に接続した他機器やラジオなどの音声を聴くまでの手順です。



1 再生機器の電源をオンにする。

2 電源⏻ボタンを押して本機の電源をオンにする。

3 入力切り換えボタンを押して聴きたい入力を選ぶ。

入力切り換えボタンはそれぞれ以下の入力に切り換わります。

D AUX※ － DIGITAL AUX端子（光デジタル音声）
A AUX － ANALOG AUX端子（アナログ映像/音声）
iPod USB － フロントパネルのiPod iPhone USB端子
NETWORK － LAN端子（NETWORK機能）
ADAPTER － ADAPTER PORT端子
TUNER － TUNER端子（FM/AMラジオ）
BD － BD/BDR端子（HDMI映像/音声）
DVD － DVD/DVR端子（HDMI映像/音声）
CD※ － CD端子（同軸デジタル音声）
STB － STB端子（HDMI映像/音声）
GAME － GAME端子（HDMI映像/音声）
TV － TV端子（光デジタル音声）
PORTABLE － フロントパネルのPORTABLE端子

- 下線が付いている入力切り換えボタンを押すと、リモコンがそれぞれの機器の操作モードに切り換わります（操作できるのはパイオニア製機器のみです）。本機を操作したいときは、先に AVアンプ ボタンを押してから操作ボタンを押してください。
- ※印が付いている入力は、アナログ映像入力を割り当てることができます（→29ページ）。

4 再生機器の再生を開始する。

5 お好みのリスニングモードを選ぶ。
（→23ページ）

6 音量を調節する。

音量は、MIN（最小）～MAX（最大）の範囲で操作できます。

一時的に音を消したいときは、**消音**ボタンを押します。もう一度押すか、音量を調節すると解除します。

お知らせ

- デジタル入力(光/同軸)で再生できるデジタル信号の形式は、Dolby Digital、PCM(32 kHz ～ 96 kHz)、DTS(DTS 96 kHz/24 bitを含む)およびMPEG-2 AACです。HDMI入力ではさらに、SACD(DSD 2 ch)、DVDオーディオ(192 kHz含む)、ドルビーTrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-EXPRESS、DTS-HD Master Audio、DTS-HD Hi-Resolutionなども再生できます。その他のデジタル信号は対応していませんので、アナログで接続し**ANALOG AUX**入力を選択してください。
- HDMI設定のARCをONにした場合、**TV**入力に切り換えるとHDMIケーブル経由でテレビの音声が入力されます(オーディオリターンチャンネル対応テレビの接続時)。
- **ANALOG AUX**(アナログ)に接続したDTS対応のLDプレーヤーやCDプレーヤーを再生すると、デジタルノイズが発生することがあります。この場合、デジタルで接続してください。
- DVDプレーヤーによってはDTS信号が出力できないなど、再生できるデジタル信号に制限があります。詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- オーディオ調整機能のHDMIを**THROUGH**に設定しているときは、本機からではなくテレビから音が出ます(→26ページ)。

ヘッドホンで聴く

1 ヘッドホンをPHONES端子に差し込む。

ヘッドホンを差し込むと、スピーカーからは音が出なくなります。

リスニングモードは**PHONES SURR**、**STEREO**または**STEREO ALC**のみ選択できます。

(**ADAPTER**入力のときは、**S.R AIR**も選択できます。)

iPodをつないで再生する

本機とiPodを接続して、iPodの音楽を本機で楽しめます。

- iPodの接続については、「iPodを接続する」(→13ページ)をご覧ください。

1 電源⏻ボタンを押して本機の電源をオンにする。

テレビの電源もオンにして、テレビの入力を本機と接続した入力に合わせてください。

2 iPod USBボタンを押す。

フロントパネル表示部に**Loading**と表示され、iPodが正しく接続されているかどうかの確認が行われます。

テレビに**Top Menu**画面が表示されると、iPodやiPhone本体を操作することはできなくなります。

3 ⬆/⬇ボタンで再生したいカテゴリーを選んで、ENTERボタンを押す。

カテゴリーは以下の中から選びます。

選んだカテゴリーのリストが表示されます。

Playlists	Genres
Artists	Composers
Albums	Audiobooks
Songs	Shuffle Songs
Podcasts	

- 前の画面に戻るには、**戻る**ボタンを押します。

4 ⬆/⬇ボタンで再生したいリスト(ジャンル、アルバムなど)を選んで、ENTERボタンを押す。

5 手順5を繰り返して、聴きたい曲を再生する。

お知らせ

- 本機は、第5世代以降のiPodやiPod nano、iPod classic、iPod touch、iPhone(3G以降)の音声に対応しています(iPod shuffleには対応しておりません)。モデルによっては一部機能が制限されます。
- 本製品は、パイオニアホームページに記載されているiPod/iPhoneのソフトウェアバージョンに基づいて開発、テストされたものです。
- パイオニアホームページに記載されているバージョン以外のソフトウェアをお客様のiPod/iPhoneにインストールした場合、本製品との互換が無くなる場合があります。
- iPodやiPhoneは、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- パイオニア製品からiPodやiPhoneのイコライザを操作することはできません。本機にiPodやiPhoneを接続する前に、iPodやiPhoneのイコライザを「オフ」に設定することをお勧めします。
- 本機とiPodやiPhoneを組み合わせてご使用の際、iPodやiPhoneのデータに不具合が生じても、データの補償はいたしかねますのであらかじめご了承ください。
- フロントパネルで表示できるのは英数字だけです。英数字以外の文字は「*」で表示されます。
- iPodの操作については、iPodに付属の取扱説明書をご覧ください。
- iPodやiPhoneを接続しても正しく操作できない場合は、本機の電源をオフにしてから、iPodを接続しなおしてください。それでもiPodが正常に動作しない場合は、iPodをリセットしてください。
- iPodを充電するときは、本機の電源をオンにして、**iPod USB**入力に切り換えてください。

iPodを操作する

本機のリモコンで以下のiPodの操作ができます。

- はじめに**iPod USB**ボタンを押して、リモコンをiPodの操作モードに切り換えてください。

ボタン	機能
▶	再生を開始します。
⏸	一時停止します。
⏮	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
⏭	次のトラックの先頭に進みます。
🔁	リピート再生を設定します。 押すたびに**Repeat One**、**Repeat All**、**Repeat Off**に切り換わります。
🔀	シャッフル再生を設定します。 押すたびに**Shuffle Songs**、**Shuffle Albums**、**Shuffle Off**に切り換わります。
表示	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
⬅/➡	リスト画面を表示中にページ送り/戻しをします。
戻る	前の画面に戻ります。

iPodの操作を切り換える

iPodの操作を本機とiPod本体とで切り換えることができます。

重要

- iPod第5世代およびiPod nano第1世代はこの機能に対応していません。

1 iPodコントロールボタンを押して、操作をiPod側に切り換える。

操作を本機側に切り換えるには、もう一度iPodコントロールボタンを押します。

お知らせ

- フロントパネルの**iPod iPhone DIRECT CONTRL**ボタンを押すと、本機の入力がiPodに切り換わり、iPodの操作がiPod本体で行えるようになります。
- iPodの操作については、iPodに付属の取扱説明書をご覧ください。

USBメモリーを再生する

お手持ちのUSBメモリーを本機に接続して、USBメモリーに記録されている音楽ファイルを本機で再生できます。

- USBメモリーの接続については、「USBメモリーを接続する」(→14ページ)をご覧ください。

1 電源⏻ボタンを押して本機の電源をオンにする。

テレビの電源もオンにして、テレビの入力を本機と接続した入力に合わせてください。

2 iPod USBボタンを押す。

テレビ画面にLoadingと表示され、USBメモリーを読み込みます。読み込みが終了すると、フォルダー/ファイルリスト画面が表示されます。

再生機能を使っていろいろな再生が可能です。詳しくは「再生機能について」(→右記)をご覧ください。

お知らせ

- 本機で再生できるUSBメモリーのファイルは、WMA、MP3、MPEG-4 AAC、WAV、FLACのいずれかで、著作権保護のかかっていない音楽ファイルのみです。本機で対応しているフォーマットについては、44ページをご覧ください。
- 本機とパソコンをUSBケーブルで接続して音楽ファイルを再生することはできません。本機が対応しているUSBメモリーは、外付ハードディスクや携帯フラッシュメモリー、デジタルオーディオ再生機(FAT 16、FAT 32のフォーマットに対応)などのUSBマスストレージクラスに属する機器です。
- 本機ではすべてのUSBメモリーの再生、および電源の供給を保証できない場合があります。また、本機と接続したことで、USBメモリーのファイルが万一損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。
- 容量の大きいUSBメモリーを接続したときは、読み込みに多少時間がかかることがあります。
- 本機はUSBハブには対応していません。
- 本機で再生できないファイルが選択された場合は、自動的に次の再生可能なファイルが再生されます。
- 曲のタイトルがファイルに記録されていない場合は、ファイル名がUSB再生画面に表示されます。アルバム名やアーティスト名が記録されていない場合は、それらは表示されません。
- フロントパネルで表示できるのは英数字だけです。英数字以外の文字は「＊」で表示されます。
- USBメモリーを外すときは、本機の電源をオフ(スタンバイ)にしてください。

再生機能について

本機のリモコンで以下のUSBメモリーの再生操作ができます。

- はじめにiPod USBボタンを押して、リモコンをUSBメモリーの操作モードに切り換えてください。

ボタン	機能
▶	再生を開始します。
❚❚	一時停止します。
■	再生を停止します。
⏮	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
⏭	次のトラックの先頭に進みます。
🔁	リピート再生をオン/オフします。
🔀	シャッフル再生をオン/オフします。
表示	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
⬆/⬇/⬅/➡	フォルダー/ファイルリスト画面でページを送り/戻します。
戻る	画面の階層を戻します。

お知らせ

フロントパネル表示部にメッセージが表示された場合は、以下の操作を行ってみてください。

- 本機の電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。
- 本機の電源を切ってからUSBメモリーを抜き、再度USBメモリーを接続して電源を入れてみてください。
- BDなどの他の入力に切り換えてから、再度iPod/USB入力にしてみてください。
- ACアダプターが付属されているUSBメモリーをお使いの場合は、ACアダプターを接続して使用してみてください。

上記の操作を行ってもメッセージが表示されるときは、本機がお手持ちのUSBメモリーに対応していません。

ネットワークで音楽を聴く

本機のLAN端子をネットーワークに接続して、以下ようなネットワーク上の音楽を楽しむことができます。

1　インターネットラジオを聴く

SHOUTcastが提供する放送局リストから、お好きな放送局を選んで再生することができます。

2　パソコンにためた音楽ファイルを本機で再生

パソコンなどに保存されているたくさんの音楽ファイルを本機で再生することができます。お手持ちのネットワーク機器の取扱説明書とあわせてご確認ください。

- パソコン以外にも、DLNA1.0またはDLNA1.5に準拠したメディアサーバー機能を持つ機器（たとえば、ネットワーク型ハードディスクやネットワーク対応のオーディオシステムなど）であれば保存されているファイルを本機で再生することができます。

お知らせ

- 本機は下記の技術を使ってネットワーク上の機器に保存されている音楽ファイルを再生します。各技術の詳細については「用語解説」もあわせてご覧ください。
  — Windows Media Player 11
  — Windows Media Player 12
  — DLNA
- 画像/動画ファイルは再生できません。
- 本機が対応している形式のファイルでも再生できないことがあります。
- 放送局リストで選択できる放送局でも再生できないことや、再生の状態が不安定になることがあります。
- 接続している機器の種類やソフトウェアのバージョンによって働かない機能があります。
- 対応しているファイルの形式は接続している機器によって異なります。接続している機器が対応していない形式のファイルは表示されません。詳しくはお使いの機器のメーカーにお問い合わせください。
- 接続している機器の性能や状態によって再生が停止したり、正しく再生できないことがあります。
- 再生できないファイルやインターネットラジオ放送局があった場合は、自動で次の再生できるファイルや受信可能なインターネットラジオ放送局を再生します。
- ネットワークの通信が混雑していると、ファイルが表示されない、または再生できないことがあります。ネットワーク上の機器と接続するときは100BASE-TXのご利用をお勧めします。
- ネットワーク上の複数の機器が同じファイルを同時に再生すると再生が停止することがあります。
- 接続している機器にインターネットセキュリティーソフトウェアなどがインストールされているとネットワークに接続できないことがあります。
- 当社は、本機とネットワーク上で接続している機器の不具合やファイルまたはデータの破損などに関して、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。接続している機器のメーカー、またはプロバイダーにお問い合わせください。

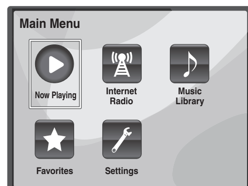
1 **電源⏻ボタンを押して本機の電源をオンにする。**

テレビの電源もオンにして、テレビの入力を本機と接続した入力に合わせてください。

2 **NETWORKボタンを押す。**

NETWORK入力に切り換わり、以下のメインメニュー画面が表示されます。

- ネットワークに接続するため、多少時間がかかることがあります。



3 **⬆/⬇ボタンで再生したいカテゴリーを選んで、ENTERボタンを押す。**

カテゴリーは以下の中から選びます。

- **Now Playing** — 現在再生している曲の情報が表示されます。
- **Internet Radio** — SHOUTcastを利用したインターネットラジオを聴きます。
- **Music Library** — ネットワーク上のパソコンに保存された音楽ファイルを再生します。
- **Favorites** — 登録されたお気に入りの曲や放送局を再生します。
- **Settings** — NETWORK入力についての設定を行います。

4 **⬆/⬇ボタンで再生したいフォルダーやファイル、放送局などを選んで、ENTERボタンを押す。**

⬆/⬇ボタンで画面をスクロールできます。選んだ項目が音楽ファイルの場合、再生画面が表示され、再生が始まります。前の画面に戻るには**戻る**を押します。

項目が複数画面にまたがっている場合は、⬅/➡ボタンで素早く次の画面に移動できます。

5 **手順4を繰り返して、聞きたい曲を再生する。**

それぞれの詳しい操作は以下をご確認ください。

- インターネットラジオ：「インターネットラジオを聴く」（下記）
- ネットワーク上の音楽ファイル：「ネットワーク上の音楽ファイルの再生について」（下記）

インターネットラジオを聴く

インターネットラジオとは、インターネットを通じて配信しているラジオのことです。インターネットラジオの放送局には個人が運営するものから地上波の放送局が運営するものまで、さまざまな放送局が世界中に多数存在しています。地上波のラジオは電波の届く範囲でのみ放送を聴くことができますが、インターネットラジオではインターネットを通じて世界中の放送を聴くことができます。

インターネット回線の状況によっては、放送局の音声が中断したり、とぎれて聞こえることがあります。

お知らせ

- インターネットラジオを聴くときはインターネットをブロードバンドで接続してください。56 KモデムやISDNでは十分にお楽しみいただけないことがあります。
- インターネットラジオは放送局によってポート番号が異なりますので、ファイアウォールの設定をご確認ください。
- ラジオ局によっては放送が中止、中断されていることがあります。この場合は放送局リストで選択できる放送局でも再生することができません。
- 放送局によっては曲名などが正しく表示されない場合があります。

ラジオ局のリストについて

本機のインターネットラジオ局リストは、ラジオ局データベースサービス(SHOUTcast)を利用しています。

ネットワーク上の音楽ファイルの再生について

本機のリモコンで以下の操作ができます。再生しているカテゴリーによっては使用できないボタンがあります。

- はじめにNETWROKボタンを押して、リモコンをネットワークの操作モードに切り換えてください。

ボタン	機能
▶	再生を開始します。
❚❚	一時停止します。
■	再生を停止します。
❙◀◀	前のトラックに戻ります。
▶▶❙	次のトラックの先頭に進みます。
表示	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
⬅/➡	フォルダー /ファイルリスト画面でページを送り/戻します。
戻る	前の画面に戻ります。

お気に入りの曲を再生する

お気に入りの曲やインターネットラジオ放送局をFavoritesに登録して、あとから簡単に呼び出すことができます。

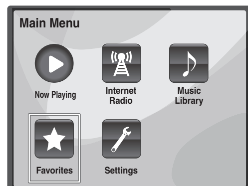
曲や放送局を登録する

1 曲の再生中に、⬆/⬇ボタンで「Add to Favorites」を選んで、ENTERボタンを押す。

選んだ曲がFavoritesに登録されます。

登録した曲や放送局を再生または削除する

1 メインメニューで「Favorites」を選ぶ。



2 ⬆/⬇ボタンで音楽ファイルまたは放送局を選んで、ENTERボタンを押す。

3 ⬅/➡ボタンで再生または削除の操作を選んで、ENTERボタンを押す。

▶ — 選んだ曲や放送局が再生されます。

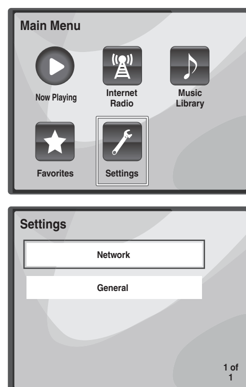
× — 選んだ曲や放送局がFavoritesから削除されます。

- ⮌ボタンで前の画面に戻ります。

ネットワークの設定を行う

本機でネットワーク上の曲やインターネットラジオを聴くためのさまざまな設定を行います。

1 メインメニューで「Settings」を選ぶ。



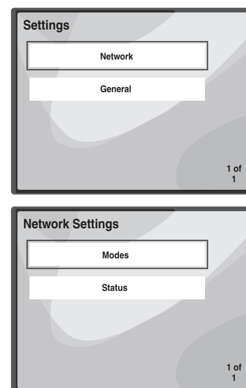
2 設定したい項目を選ぶ。

- Network — ネットワークに接続するための設定を行います。(→「ネットワーク接続の設定」(下記))
- General — ネットワークについての設定を初期化します。(→「その他の設定」(下記))

ネットワーク接続の設定

本機のLAN端子を使用してネットワークに接続し、DHCP機能をON（工場出荷時の設定）にしておけば、通常はネットワークの設定を行う必要はありません。DHCPサーバー機能がないネットワークに接続しているときのみ以下のネットワークの設定を行います。設定の際はプロバイダー、またはネットワーク管理者からの設定値を確認してから設定してください。ネットワーク上の機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 Settingsメニューで「Network」を選ぶ。



2 Network Settingsメニューで「Modes」を選ぶ。

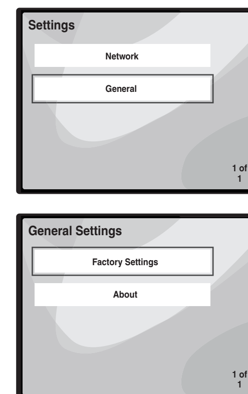
DHCPサーバー機能がないルーターの場合は、ここでネットワークの設定を行います。

- DHCP（工場出荷時の設定）— サーバーが機能に対応している場合に選びます。
  DHCPを選ぶと自動的にネットワークへの接続が開始されます。ネットワーク接続の詳細が表示されると、接続は完了です。ENTERボタンを押して前の画面に戻ってください。)
- STATIC — サーバーへの接続設定を手動で行います。設定画面では以下の操作で文字を入力します。
  — ⬅ボタンを押すごとに1文字ずつ削除されます。
  — ➡ボタンを押すと文字種が切り換わります。
  — ⬆/⬇ボタンで一覧から文字を選んでENTERボタンを押します。
  — 入力内容が終わったときや入力をキャンセルする場合は、⬆/⬇でOKまたはCANCELを選んでENTERボタンを押します。

お知らせ

- STATICを選んだ場合の設定項目は以下の内容です。
  — IP（IPアドレス）
  入力するIPアドレスは下記の範囲で設定してください。下記以外のIPアドレスではネットワーク上の音楽ファイルやインターネットラジオを再生することができません。
  CLASS A: 10.0.0.1 ～ 10.255.255.254
  CLASS B: 172.16.0.1 ～ 172.31.255.254
  CLASS C: 192.168.0.1 ～ 192.168.255.254
  — MASK（サブネットマスク）
  xDSLモデムやターミナルアダプターを直接本機に接続している場合は、プロバイダーから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は255.255.255.0が入ります。
  — Gateway（デフォルトゲートウェイ）
  ゲートウェイ(ルーター)に接続している場合は、そのIPアドレスを入力します。
  — DNS（DNSサーバー）
  プロバイダーから書面などで通知されたDNSアドレスを入力します。
- Network SettingsメニューでStatusを選ぶと、現在のネットワーク接続の詳細が表示されます。

その他の設定



1 Settingsメニューで「General」を選ぶ。

2 General Settingsメニューで設定したい項目を選ぶ。

- Factory Settings — ネットワーク接続の設定がリセットされ、すべて工場出荷時の状態に戻ります。
  - — 「Warning: All Settings will be lost! Are you sure?」と表示されたら、☑を選んでENTERボタンを押します。リセット動作が開始すると「Please Wait」と表示されます。リセットが完了すると、メインメニュー画面に戻ります。
  - — ×を選ぶと、リセットを中止します。
- About — 本機のMACアドレスが表示されます。

DLNAに準拠した機器の再生について

本機は下記の機器に保存されているネットワーク上の音楽ファイルを再生できます。

- OSがMicrosoft Windows VistaまたはXP Service Pack 3で、Windows Media Player 11がインストールされているパソコン
- OSがMicrosoft Windows 7で、Windows Media Player 12がインストールされているパソコン
- DLNA1.0またはDLNA1.5に準拠したメディアサーバー（パソコンやネットワーク型ハードディスクなど）

DHCPサーバー機能について

ネットワーク上の機器に保存されている音楽ファイルやインターネットラジオを再生するには、ルーターのDHCPサーバー機能がONになっている必要があります。DHCPサーバー機能がないルーターの場合はネットワークの設定を行わなければネットワーク上の音楽ファイルやインターネットラジオの再生ができません。詳しくは「ネットワークの設定を行う」（→20ページ）をご確認ください。

接続しているサーバーに本機を認証させる

NETWORK入力を使ってサーバーに保存されているファイルを再生するには、あらかじめサーバーが本機を認証（許可）している必要があります。認証（許可）方法は接続しているサーバーによって異なります。詳しくはサーバーの取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- フロントパネルで表示できるのは英数字だけです。英数字以外の文字は「＊」で表示されます。
- Windowsのネットワーク環境で、ドメインが構成されている場合、ドメインにログオンしているとパソコンに接続できません。ドメインではなくローカルマシンにログオンしてください。

ネットワークを使った外部コンテンツのご利用について

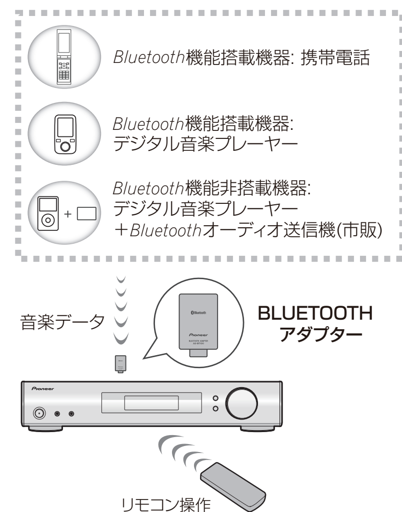
外部コンテンツのアクセスには高速インターネットへの接続が必要であり、プロバイダへの登録や契約が必要となります。第三者が提供するコンテンツのサービスは、予告なく、変更、中断、中止される可能性があり、パイオニアは、そのような事態に対していかなる責任も負いません。パイオニアは、外部コンテンツの提供サービスの継続や利用可能期間について、いかなる保証もしません。

対応ファイルフォーマットについて

本機のNETWORK入力で対応しているフォーマットについては44ページをご覧ください。

- 本機が対応している形式のファイルでも再生できないことがあります。
- 接続している機器の種類やソフトウェアのバージョンによって働かない機能があります。
- 対応しているファイルの形式は接続している機器（サーバー）によって異なります。接続している機器が対応していない形式のファイルは表示されません。詳しくはお使いの機器（サーバー）のメーカーにお問い合わせください。
- サーバーによっては本機が対応していないフォーマットを変換（トランスコード）して出力できるものもあります。詳しくはサーバーの取扱説明書をご確認ください。
- インターネットラジオの再生では、インターネット経由の通信環境に影響を受けることがあり、その場合はここに記載されているファイルフォーマットでも再生できないことがあります。

BLUETOOTHアダプターを使用してワイヤレスで音楽を楽しむ



別売りのBLUETOOTHアダプター AS-BT100またはAS-BT200を本機に接続するだけで、*Bluetooth*機能搭載機器（携帯電話、デジタル音楽プレーヤーなど）の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。市販の*Bluetooth*オーディオ送信機を使って、*Bluetooth*機能非搭載機器の音楽を楽しむこともできます。詳しくは、BLUETOOTHアダプターや*Bluetooth*機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

- BLUETOOTHアダプターの接続については、「BLUETOOTHアダプターを接続する」（→12ページ）をご覧ください。

Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、パイオニア株式会社は、これら商標を使用する許可を受けています。他のトレードマークおよび商号は、各所有権者が所有する財産です。

BLUETOOTHアダプターをペアリングする（初期登録）

BLUETOOTHアダプターを使用して*Bluetooth*機能搭載機器の音楽を楽しむためには、ペアリングを行う必要があります。最初にBLUETOOTHアダプターを使用するとき、または*Bluetooth*機能搭載機器側のペアリングデータを消去したときは、ペアリングを行ってください。

ペアリングは、*Bluetooth*無線技術を利用した通信が可能になるようにするために必要なステップです。

- ペアリングは、BLUETOOTHアダプターおよび*Bluetooth*機能搭載機器を使用する際に、はじめに1回だけ行います。
- *Bluetooth*無線技術を利用した通信を行うために、ペアリングは本機と*Bluetooth*機能搭載機器の両方で行う必要があります。
- *Bluetooth*機能搭載機器のPINコードが0000の場合、本機側でPINコードを設定する必要はありません。ADAPTERボタンを押してADAPTER入力に切り換えてから、*Bluetooth*機能搭載機器側でペアリング操作を行ってください。正しくペアリングが行われた場合、以下の本機でのペアリング操作を行う必要はありません。
- AS-BT200使用時のみ：*Bluetooth*機能搭載機器がSSP（Secure Simple Pairing）に対応しているときはPINコードの設定は必要ありません。ADAPTERボタンを押してADAPTER入力に切り換えてから、*Bluetooth*機能搭載機器側でペアリング操作を行ってください。正しくペアリングが行われた場合、以下の本機でのペアリング操作を行う必要はありません。

詳しくは、*Bluetooth*機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

1 電源⏻ボタンを押して本機の電源をオンにする。

2 ADAPTERボタンを押す。

本機がADAPTER入力に切り換わります。

- BLUETOOTHアダプターを本機に接続していない場合は、ADAPTER入力を選ぶとNO ADAPTERと表示されます。

3 トップメニューボタンを押す。

4 PAIRINGと表示されていることを確認してENTERボタンを押す。

5 ⬅/➡ボタンでPINコードを選んで、ENTERボタンを押す。

本機のPINコードを*Bluetooth*機能搭載機器と同じPINコードに設定します。本機で設定可能なPINコードは、0000/1234/8888のいずれかです（工場出荷時は、0000に設定されています）。

- ENTERボタンを押すと、PAIRINGと点滅します。

6 ペアリングしたい*Bluetooth*機能搭載機器の電源をオンにして、ペアリング操作を行う。

ペアリングが開始されます。

- *Bluetooth*機能搭載機器は、本機の近くに置いてください。
- *Bluetooth*機能搭載機器のペアリング可能な状態や接続操作などについては、*Bluetooth*機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

7 *Bluetooth*機能搭載機器がペアリングされたことを確認する。

*Bluetooth*機能搭載機器が正しくペアリングされた場合、本機のフロントパネル表示部に*Bluetooth*機能搭載機器の名前が表示されます（表示できる文字は半角英数字のみです）。

*Bluetooth*機能搭載機器がペアリングされなかった場合、NO DEVICEと表示されます。このときは、*Bluetooth*機能搭載機器側で接続操作を行ってください。

8 *Bluetooth*機能搭載機器のリストからBLUETOOTHアダプターを選んで、手順5で選択したPINコードを入力する。

- PINコードはパスコードやパスキーと呼ばれることがあります。

*Bluetooth*機能搭載機器の音楽を本機で聴く

1 ADAPTERボタンを押す。

本機がADAPTER入力に切り換わります。

2 *Bluetooth*機能搭載機器とBLUETOOTHアダプターを*Bluetooth*接続する。

*Bluetooth*機能搭載機器側からBLUETOOTHアダプターに対して接続操作を行います。

- 接続操作については、お使いの*Bluetooth*機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

3 *Bluetooth*機能搭載機器の音楽を再生する。

本機のリモコンで、以下の*Bluetooth*機能搭載機器の操作ができます。

ボタン	機能
▶	再生を開始します。
⏸	一時停止/一時停止解除します。
■	再生を停止します。
⏮/⏭	再生中に頭出し（スキップ）します。
◀◀/▶▶	再生中に早送り（早戻し）します。

お知らせ

- 本機のリモコンで操作するには、*Bluetooth*機能搭載機器がプロファイル：AVRCPに対応している必要があります。
- すべての*Bluetooth*機能搭載機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。
- *Bluetooth*機能搭載機器によっては異なる動作をする場合があります。

ラジオ放送を聴く

FM/AMラジオ放送を聴くことができます。一度受信した放送局は本機に記憶させて、呼び出すこともできます。

- アンテナが接続されていないと、ラジオ放送を聴くことはできません。13ページを参照して、アンテナを接続してください。

1 TUNERボタンを押してチューナー入力にする。

2 バンドボタンを押して聞きたいバンドを選ぶ。

押すたびにFM（ステレオとモノ）とAMが切り換わります。

3 放送局を受信する。

以下の3つの方法で選局できます。

オートチューニング：

チューニング+/−（または⬆/⬇）ボタンを押して、周波数が動きはじめたら指を放します。自動で放送局を探し、受信すると止まります。次の放送局を探すときはもう一度押してください。

マニュアルチューニング：

チューニング+/−（または⬆/⬇）ボタンを押すたびに1ステップずつ周波数を移動します。

ハイスピードチューニング：

チューニング+/−（または⬆/⬇）ボタンを押し続けると、高速で周波数を移動します。受信したい放送局の周波数でボタンから指を放してください。

お知らせ

- ラジオ放送をモノラルで受信しているときは、フロントパネル表示部に▼が点灯します。また、FMラジオ放送をステレオで受信しているときは、▼が点灯します。
- FMの受信で▼または▼が点灯せず受信状態が悪いときは、**バンド**ボタンを押してモノラル受信（FM MONO）に切り換えます。受信感度が良くなり放送が聴きやすくなります。

放送局を記憶させる

よく聴く放送局を30局まで本機に記憶させて、あとから簡単に呼び出すことができます。

1 記憶させたい放送局を受信する。

2 ツールボタンを押す。

フロントパネル表示部にステーション番号が点滅します。

3 選局+/−（または⬅/➡）ボタンを押して記憶させるステーション番号を選ぶ。

4 ENTERボタンを押す。

保存先のステーション番号の点滅が止まり、本機に放送局が記憶されます。

記憶させた放送局を呼び出す

1 選局+/−（または⬅/➡）を押して呼び出したい放送局のステーション番号を選ぶ。

記憶させた放送局に名前をつける

選局しやすいように、記憶させた放送局に名前をつけることができます。

1 名前をつけたい放送局を呼び出す。

選局方法については、「記憶させた放送局を呼び出す」（→上記）をご覧ください。

2 ツールボタンを2回押す。

表示部の最初の文字の位置でカーソルが点滅します。

3 名前を入力する。

選局+/−（または⬅/➡）ボタンで文字の位置を選び、**チューニング+/−**（または⬆/⬇）ボタンで文字を選びます。

- 名前は8文字まで入力できます。

4 ENTERボタンを押す。

名前が記憶されます。

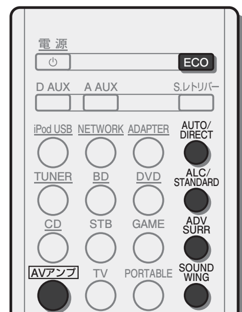
お知らせ

- 入力した名前を消去するには、上記の手順1〜2を行ってから**ENTER**ボタンを押します。このとき**ツール**ボタンを押すと入力した名前を残します。
- 放送局に名前をつけると、**ENTER**ボタンを押すことで、その放送局の名前表示に切り換えることができます。周波数表示に戻したいときは周波数表示になるまで**表示**ボタンを押します。

リスニングモード

リスニングモードを選ぶ

再生機器からの信号にいろいろな音場効果を加えることができます。



重要

- スピーカーの設定や入力信号の種類によって、選択できるサラウンド再生の種類は異なります。

1 **AVアンプボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。**

2 **リスニングモードボタンを押してリスニングモードを選ぶ。**

ボタンを押すたびにモードの種類を切り換えて選択できます。

それぞれのリスニングモードについて、以下の設定が選べます。



サラウンド再生やステレオ再生を行う

いつでもサラウンド再生で楽しみたい場合や、ステレオ音声を聞く方に適したモードです。

サラウンド再生のためのデコードを行います。2chソースはマトリックス･サラウンド･デコードをします。

2ch信号入力時	
STEREO ALC	音量差のあるソースに適しています。
DD PRO LOGIC	4.1chサラウンドです（サラウンドスピーカーからの音声はモノラルです）。
DD PLIIx MOVIE	最大7.1chサラウンドで、映画に適しています。
DD PLIIx MUSIC	最大7.1chサラウンドで、音楽に適しています。
DD PLIIx GAME	最大7.1chサラウンドで、ゲームに適しています。
DD PLIIz HEIGHT	フロントハイトスピーカーの接続時に適しています。
ストレートデコード	ソース音源に効果を加えずに再生します。
NEO:6 CINEMA	最大7.1chサラウンドで、映画に適しています。
NEO:6 MUSIC	最大7.1chサラウンドで、音楽に適しています。
STEREO	ステレオ2ch再生します。
マルチチャンネル信号入力時	
STEREO ALC	音量差のあるソースに適しています。
DD PLIIx MOVIE	最大7.1chサラウンドで、映画に適しています。
DD PLIIx MUSIC	最大7.1chサラウンドで、音楽に適しています。
DD DIGITAL EX	5.1チャンネル信号からサラウンドバックチャンネル音声を創り出し、7.1チャンネルで再生します。
DD PLIIz HEIGHT	フロントハイトスピーカーの接続時に適しています。
ストレートデコード	ソース音源に効果を加えずに再生します。
DTS-ES	DTS-ES信号をそのままデコードし、7.1チャンネルで再生します。
DTS NEO:6	5.1チャンネル信号からサラウンドバックチャンネル音声を創り出し、7.1チャンネルで再生します。
STEREO	ステレオ2ch再生します。



アドバンスドサラウンド再生を行う

ソースに応じた多彩なサラウンドが楽しめるモードです。

デコード処理とパイオニア独自の技術を組み合わせたサラウンド再生モードです。数種類からの選択が可能です。（デコード処理を変更することはできません。）

ACTION	アクション映画などをダイナミックに再生します。
DRAMA	映画などのセリフを明瞭に再生します。
ENT.SHOW	ミュージカルなどの音楽系ソースに適したモードです。
ADV GAME	テレビゲームに適したモードです。
SPORTS	スポーツ番組に適したモードです。
CLASSICAL	大きなコンサートホールのような臨場感で再生します。
ROCK/POP	ロックやポップに適したモードで、ライブ会場のような臨場感で再生します。
UNPLUGGED	アコースティック音楽系ソースに適したモードです。
EXT.STEREO	ステレオ2チャンネル音声をマルチチャンネル音声にして、すべてのスピーカーを使って再生します。
FSS ADVANCE	フロント左右の2本のスピーカーだけでサラウンド感を楽しめます。
SOUND WING	HVTスピーカーを接続したときに適しています。
S.R AIR	*Bluetooth*機能搭載機器の音楽を再生する場合に適しています。
PHONES SURR	ヘッドホン接続時にサラウンド効果を得られます。



オートサラウンド再生やダイレクト再生を行う

AUTO SURRでは､入力信号に収録されたチャンネル数に応じて再生チャンネル数を自動的に選択します。

（工場出荷時の設定はAUTO SURRです。）

AUTO SURR	再生している音声信号を本機が自動で検出して、マルチチャンネルやステレオなど最適な再生方法が選ばれます。
DIRECT	入力信号を加工せずにソースに忠実な再生を行います。
PURE DIRECT	アナログ信号やPCM信号をデジタル処理せずにそのまま再生します。

ECO エコモードで再生を行う

高音質で再生しながら、消費電力を最大35%削減します。

ボタンを押すごとに、エコモードのオン/オフが切り換わります。

お知らせ

サラウンド再生について

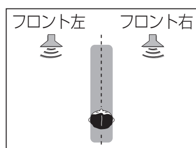
- サラウンドバックch処理の設定(→25ページ)がOFFであったり、サラウンドスピーカーの設定(→28ページ)がNOの場合は、選択できるモードが以下のように変わります。
  ◻◻PLIIx MOVIE → ◻◻PLII MOVIE
  ◻◻PLIIx MUSIC → ◻◻PLII MUSIC
  ◻◻PLIIx GAME → ◻◻PLII GAME
- ◻◻PLII(x) MUSICモードでステレオ2 ch音声を聴いている場合、CENTER WIDTH（センター幅）、DIMENSION（ディメンション）、PANORAMA（パノラマ）の3つの項目を調整できます(→26ページ)。
- ◻◻PLIIz HEIGHTモードのときは、HEIGHT GAIN（ハイトゲイン）の項目を調整できます(→26ページ)。
- NEO:6 CINEMAまたはNEO:6 MUSICモードでステレオ2ch音声を聴いている場合、CENTER IMAGE（センターイメージ）の項目を調整できます(→26ページ)。
- サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、最大5.1ch再生になります。
- 6.1chサラウンドの場合は、左右のサラウンドバックスピーカーからは同じ音が出ます。
- STEREO ALC（オートレベルコントロール）は、音量差を本機で自動的に均一にして再生します。複数のソースを収録した機器の音声を入力しているときに適しています。

ステレオ再生について

- 設定や入力ソースにより、サブウーファーからも音が出力される場合があります。
- 聴感によるスピーカーの設定やミッドナイト／ラウドネス機能、PHASE CONTROL機能、サウンドレトリバー機能、高音／低音の調整などが反映されたステレオ再生を行います。

アドバンスドサラウンド再生について

- FSS ADVANCE（フロントサラウンド・アドバンス)モードでは、臨場感のある自然なサラウンド効果が得られます。フロントスピーカーから等距離の直線上(前後は移動可能)で視聴してください。



- SOUND WINGモードはHVTスピーカー(S-HV500-LRなど)を接続し、スピーカーの自動設定などを行ってスピーカー設定が以下の通り設定されているときのみ選択できます。
  - フロントスピーカー：SMALL
  - サブウーファー：YES
  - それ以外のスピーカー：NO
- SOUND WINGモードはリモコンのSOUND WINGボタンでも選択できます。
- S.R AIRモードはADAPTER入力のときのみ選択できます。

オートサラウンド再生について

- ステレオ2 chの(マトリックス)サラウンドフォーマットは、NEO:6 CINEMAまたは◻◻PLII(x) MOVIEでデコードされます。

ダイレクト再生について

- DIRECTモードでは、聴感によるスピーカーの設定(スピーカーの設定、スピーカー出力レベル、スピーカーまでの距離)とデュアルモノラル音声、PHASE CONTROL機能やアコースティックキャリブレーションEQ、サウンドディレイ、オートディレイ、LFEアッテネーター、CENTER IMAGE（センターイメージ)などの設定を反映して再生します。入力信号が忠実に再生されます。
- PURE DIRECTモードでは、PCM以外のソースを再生すると、再生直前にノイズが出ることがあります。この場合はDIRECTかAUTO SURRにすることをお勧めします。

エコモード再生について

- エコモードをオン/オフの切り換えをする際は、一度電源がオフになります。
- エコモードでは以下の省電力動作を行います。
  - 音声はフロント左右スピーカーおよびサブウーファーのみ出力されます。
  - フロントパネル表示部のディマーがオンになります。
- 入力を切り換えると、エコモードはオフになります。
- エコモードをオンにしたときは、HDMIによるコントロール機能は働きません。(ただし、オーディオリターンチャンネル(ARC)は利用できます。)
- エコモードをオンにしたときは、ホームメニューやリスニングモードの変更など一部の機能が制限されます。

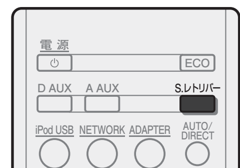
さまざまなサウンド設定

最適な設定でサウンド再生する

再生する音声の出力に関する各種設定を行います。

サウンドレトリバー機能を使う

MP3などの圧縮音声は圧縮処理される際、削除されてしまう部分が発生します。サウンドレトリバー機能では、DSP処理によってその削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。



1 **S.レトリバーボタンを押してサウンドレトリバー機能のON、OFFを選択する。**

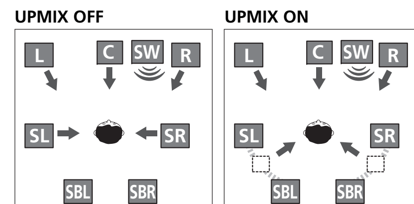
お知らせ

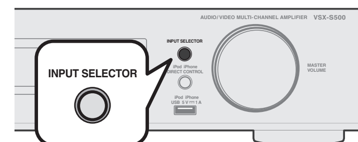
- サウンドレトリバー機能は2chの音声のみ有効です。

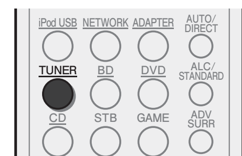
UP MIX機能を使う

６ページのサラウンドバックスピーカーを接続した7.1chサラウンドシステムのスピーカー配置例で、サラウンドスピーカーをリスニングポジションの真横に配置すると、5.1chのサラウンドチャンネルの音声が真横から聞こえてしまいます。本来5.1chのサラウンドチャンネルは斜め後方から聞こえるように収録されているため、本機ではサラウンドチャンネル音声をサラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーでミックスし、リスニングポジションの斜め後方から出力します。

- UP MIX機能は、7.1chサラウンド(サラウンドバック)システムのスピーカー配置を6ページの推奨図のとおりに配置したときに効果があります。
- スピーカーの配置位置や、再生している音源によっては効果が得られないこともあります。その場合はOFFに設定してください。







1 **本機の電源をオフ(スタンバイ)にする。**

2 **フロントパネルのINPUT SELECTORボタンを５秒以上押しながら、リモコンのTUNERボタンを押す。**

UPMIX OFFと表示され、UP MIX機能がオフになります。

- オンにしたいときは手順1 ～ 2をもう一度行います。

お知らせ

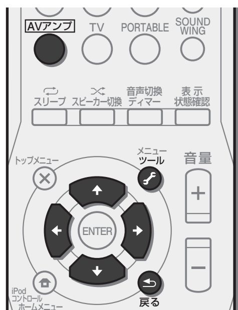
- ここでの設定にかかわらず、DTS-HD信号を再生しているときはUP MIX機能がオンになります。
- UP MIX機能がオンに設定されていても、入力信号やリスニングモードによっては自動でOFFになることもあります。

オーディオ調整機能を使う

サラウンド効果の各種設定ができます。設定はフロントパネル表示部を見ながら行います。

重要

- 入力音声信号の種類や本機の設定の状態によっては、オーディオ調整機能の表示されない項目があります。



1 AVアンプボタンを押してから、ツールボタンを押す。

2 ⬆/⬇ボタンで調整したい項目を選ぶ。

各項目で調整できる内容は以下の表のとおりです。選択項目の初期値は**太字**で示しています。

3 必要に応じて、⬅/➡ボタンで設定を選ぶ。

お知らせ

- ※印が付いている項目には、設定の出現条件や制限などがあります。26ページをご覧ください。

設定項目	内容	機能
MIDNIGHT（ミッドナイト）/ LOUDNESS（ラウドネス）	ミッドナイト機能は、サラウンド音声の映画を小音量で見るときに効果的です。音量によってその効果は調整されます。 ラウドネス機能は、音楽を聴くときに小音量でも低域、高域のレベルを自然に調整して聴きやすくします。	**MID/LDN OFF** MIDNIGHT ON LOUDNESS ON
BASS（低音）※a	低音を強調したり弱めたりします。	−6 〜 +6 初期値：**0**
TREBLE（高音）	高音を強調したり弱めたりします。	−6 〜 +6 初期値：**0**
CH LEV※b（チャンネルレベル）	各スピーカーの出力レベルを調整して、スピーカーシステム全体の音量バランスを調整します。	−15dB 〜 +15dB 初期値：**0dB** （チャンネルごと）
SB CH（サラウンドバックch処理）	サラウンドバックスピーカーを接続しているときに、サラウンドバックch音声の処理を切り換えます。 • ON － 常にサラウンドバックchへのデコード処理を付加するため、最大の出力チャンネル数で楽しめます。 • AUTO － 入力信号の種類を検出し、サラウンドバックch信号を検出したときのみ、サラウンドバックスピーカーからデコード処理された音声を出力します。ソフトに最も忠実な再生となります。 • OFF － サラウンドバックchへのデコード処理は行わず、サラウンドバックchから音声は出力されません。ただし、UP MIX機能がONのときはサラウンドチャンネルの音声をサラウンドバックスピーカーから出力します。	**ON** AUTO OFF
PHASE CTRL※c（フェイズコントロール）	マルチチャンネル再生をする際、LFE(超低域)信号や各チャンネルに含まれる低音成分はサブウーファーや他の最適なスピーカーに振り分ける処理がされます。しかし、この処理には原理上、位相がズレてしまう周波数(群遅延)が発生し、低域だけが遅れて聞こえたり他のチャンネルとの干渉により低音の打ち消し合いが発生してしまうなどの問題があります。本機では、PHASE CTRLモードをONにすることで、原音に忠実な力強い低音を再現できます。工場出荷時はONに設定されています。通常はONでのご使用をお勧めします。 ※位相とは2つの音波の時間的関係を表しています。2つの音波の山と山が合っている状態を位相が合っている、合っていない状態を位相がズレていると言います。	**ON** OFF
EQ※d（アコースティックキャリブレーションEQ）	アコースティックキャリブレーションEQ（「スピーカーの自動設定を行う(オートMCACC)」(➞15ページ)で設定された周波数特性の補正)の効果をON/OFFします。	**ON** OFF
SOUND DELAY（サウンドディレイ）	音声全体の遅延時間を調整します(DVDソフトなどで、映像の動きの方がセリフなどの音声より遅れている場合、音声全体を遅らせることで、映像の動きと音声とを合わせることができます)。	0.0 〜 9.0 フレーム (0.1間隔) (1フレーム＝1/30秒(NTSC) 初期値：**0.0**
SOUND RTRV※e（サウンドレトリバー）	圧縮音声は圧縮処理される際、削除されてしまう部分が発生します。サウンドレトリバー機能をONにすると、DSP処理によってその削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。	**OFF※f** ON
DUAL※g（デュアルモノラル）	モノラルの音声チャンネルを2つ持つデジタル信号をデュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときに再生する音声を選択することができます。 デュアルモノラル信号はあまり多くはありませんが、BSデジタル放送(MPEG-2 AAC)のモノラルの二カ国語放送や音声多重放送で使用されています。 • CH1 － チャンネル1の音声のみを再生します。 • CH2 － チャンネル2の音声のみを再生します。 • CH1 CH2 － 両方のチャンネルの音声をフロントスピーカーから再生します。	**CH1** CH2 CH1 CH2
FIXED PCM（PCMフィックス）	CDなどのPCM信号を再生しているときに、曲の始めが途切れる場合があります。そのときは、ONにすることで改善されます。ONはPCM音声専用です。PCM音声以外の信号では、音が出ずにノイズが出ることがあります。	**OFF** ON

設定項目	内容	機能
DRC （ダイナミックレンジコントロール）	ドルビーデジタルやDTS、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD、DTS-HD Master Audioなどで収録された映画の音声について、ダイナミックレンジの圧縮量を選択します。音量を下げてサラウンドを楽しむときでも、微少な音が聞き取りやすくなります。 • AUTO － ドルビー TrueHD信号に対してのみダイナミックレンジを圧縮します。 • MAX － ダイナミックレンジを最大に圧縮します（大きな音を減少させて、小さな音を増大させます）。 • MID － ダイナミックレンジを多少圧縮します。 • OFF － ダイナミックレンジを圧縮しません（音量が大きいときは、OFFにすることをお勧めします）。	**AUTO**※h MAX MID OFF
LFE ATT （LFEアッテネーター）	ドルビーデジタルやDTS音声には、LFE（超低域音声成分）が含まれていることがあります。LFEレベルが大きくて、スピーカーからの音声に歪みが生じるときは、LFEレベルをアッテネート（減衰）します。 • 0dB － 収録されているレベルのまま再生します（通常はこの設定をお勧めします）。 • －5dB ～－20dB － ここで指定したレベルだけLFEレベルをアッテネート（減衰）します。 • OFF － LFE音声を出力しません。	**0dB** －5dB －10dB －15dB －20dB OFF
SACD GAIN※i （SACD ゲイン）	SACDを歪みなく再生するための調整です。 （工場出荷時の「0」は、高レベルで記録されているディスクを再生しても音が歪まない設定になっています。「+6」に設定すると、SACDのデジタル処理に+6 dBのゲインを持たせ、SACDディスクの情報をより忠実に引き出すことができ、高音質再生が可能になります。）	**0** (dB) +6 (dB)
HDMI（HDMI音声）	HDMI INに入力された音声を、どのように再生するかを設定します。「THROUGH」に設定したときは本機からは音が出なくなります。 • AMP － 本機に接続したスピーカーで再生 • THROUGH － HDMI OUTと接続したテレビで再生	**AMP** THROUGH
AUTO DELAY （オートディレイ）	HDMIどうしで接続された機器に対する機能で、音声と映像の遅延時間を自動で調整し、映像の動きと音声を自動で合わせます。※j	**OFF** ON
CENTER WIDTH※k （センター幅）	センターチャンネルの音をフロント左／右スピーカーに振り分けて、音の調和をもたらします。0はセンタースピーカーからのみの出力で、7はセンターチャンネルの音声すべてを左右のフロントスピーカーに振り分けます。	0 ～ 7 初期値：**3**
DIMENSION※k （ディメンション）	リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整することで広がりのある音場を創り出すことができます。+3は前方の音場が強くなり、–3は後方の音場が強くなります。	–3 ～ +3 初期値：**0**
PANORAMA※k （パノラマ）	前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルにつなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。	**OFF** ON

設定項目	内容	機能
CENTER IMAGE※l （センターイメージ）	センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかを調整します。音色の不一致が緩和され、音楽再生に適した音場を創り出すことができます。0はほぼすべて左右のフロントスピーカーに振り分け、10は主にセンタースピーカーから再生します。	0 ～ 10 初期値：**3** （NEO:6 MUSIC） 初期値：**10** （NEO:6 CINEMA）
HEIGHT GAIN （ハイトゲイン）	PLIIz HEIGHTモードを選んでいるときにフロントハイトスピーカーから出力される音声の調整をします。**HIGH**を選択すると、最も上方からの臨場感が増します。	HIGH **MID** LOW

※a スピーカーの設定メニューまたはスピーカーの自動設定でフロントスピーカーがSMALLに設定されて、クロスオーバー周波数が150 Hz以上に設定されている場合、BASSの調整はできません。「チャンネルレベル」（→25ページ）でサブウーファーのチャンネルレベルを調整してください。

※b • 各スピーカーは以下の文字で表されます。

L：	フロント左	SR：	サラウンド右
FHL：	フロントハイト左	SBR：	サラウンドバック右
C：	センター	SBL：	サラウンドバック左
FHR：	フロントハイト右	SL：	サラウンド左
R：	フロント右	SW：	サブウーファー

• スピーカーの設定が**NO**のスピーカーは選択できません。

※c • サブウーファー本体にPHASE切換スイッチがついているときはプラス側（0°側）に設定してください。ただし、本機のPHASE CONTROLをONにしても効果が分かりにくいときは、サブウーファーの固体差が考えられますので、効果の大きい方を選んでください。また効果がわかりにくいときはサブウーファーの向きや場所を少しずつ変えてみることもお勧めします。

• サブウーファー内蔵のLowpassフィルタスイッチをOFFにしてください。OFFにできないサブウーファーは高いカットオフ周波数に設定してください。

• スピーカーの距離を正しく設定しないと、PHASE CONTROLの効果が正しく出ない場合があります。

• **PURE DIRECT**モードのときやヘッドホンを使用しているときは、PHASE CONTROLモードをONにすることができません。

※d • ONにするとフロントパネルのMCACCインジケーターが点灯します。

• **DIRECT**および**PURE DIRECT**モードのときは使用できません。また、ヘッドホンで聴いているときは効果がありません。

※e サウンドレトリバー機能は、**S.レトリバー**ボタンでも設定できます。

※f **iPod USB**、**NETWORK**および**ADAPTER**入力のときの初期値はONです。

※g デュアルモノラルの設定は、HDD/DVDレコーダーで録画された二カ国語放送などについては、ドルビーデジタル音声かDTS音声をデュアルモノラルモードで録画されたもののみ有効です。

※h 初期値の**AUTO**はドルビー TrueHD信号に対してのみ有効です。ドルビー TrueHD信号以外のときにダイナミックレンジコントロールを有効にしたいときはMAXかMIDを選びます。

※i 通常のSACDを再生しているときは問題ありませんが、もしもノイズが発生する場合は**0** dBに設定してください。

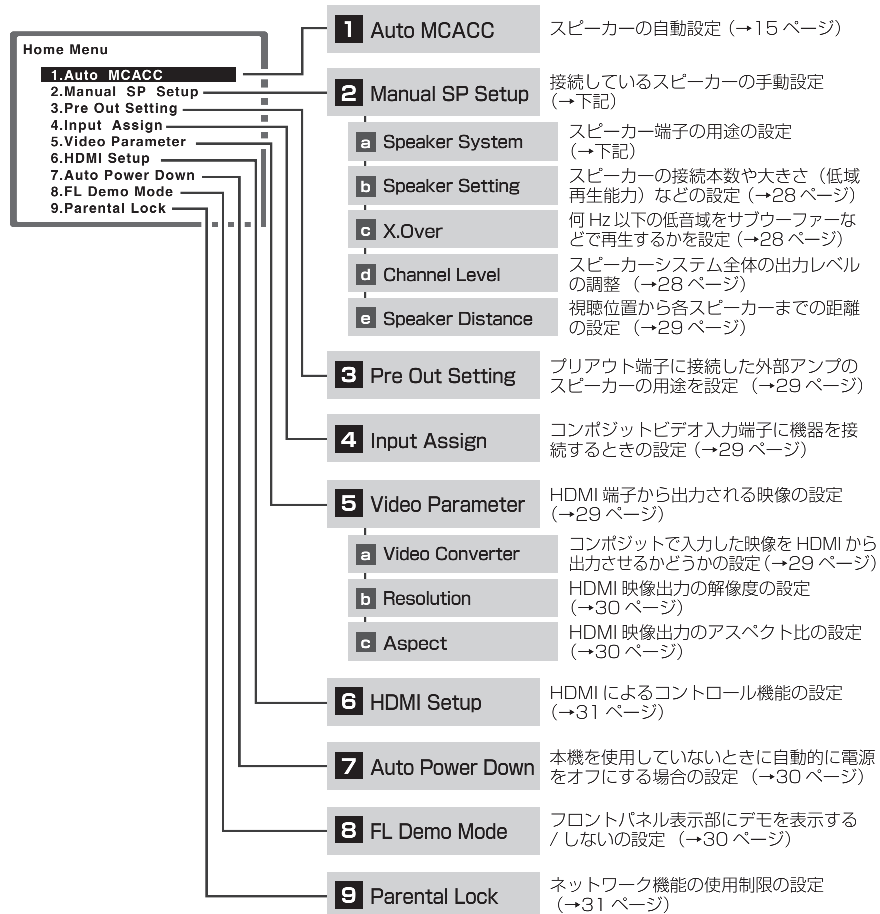
※j HDMIで接続されたリップシンク対応のテレビにのみ有効です。ONに設定しても音声全体の遅延時間が改善されないときは、OFFに設定して「サウンドディレイ」（→25ページ）を手動で調整してください。

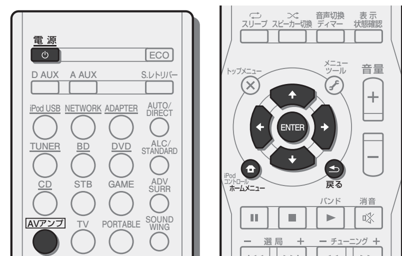
※k **PLII MUSIC**モードでステレオ2チャンネル音声を入力しているときのみ使用できます。

※l **NEO:6 CINEMA**または**NEO:6 MUSIC**モードでステレオ2チャンネル音声を入力しているときのみ使用できます。

ホームメニューで本機の設定を行う

ホームメニューでは、本機に接続したスピーカーのさまざまな調整や各種端子の用途などを設定します。設定できる項目は以下のとおりです。





1 本機とテレビの電源をオンにする。

テレビの入力を、本機と接続した入力に合わせてください。

2 AVアンプボタンを押してから、ホームメニューボタンを押す。

テレビに上記のホームメニュー画面が表示されます。

3 上記の調整したい項目を選んで設定を行う。

- ⬆/⬇/⬅/➡とENTERボタンで、操作項目を選びます。
- **戻る**ボタンで前の画面に戻ります。
- **ホームメニュー**ボタンで設定を終了します。

4 ホームメニューボタンを押して設定を終了する。

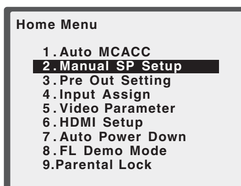
戻るボタンを数回押して終了することもできます。

聴感によるスピーカーの設定を行う

スピーカーの自動設定(→15ページ)でオートMCACC設定を行った場合は、すでにリスニング環境に最適なスピーカー設定になっていますが、お好みで設定を変更することができます。

1 ホームメニュー画面の中から「Manual SP Setup」を選択する。

- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は左記をご覧ください。

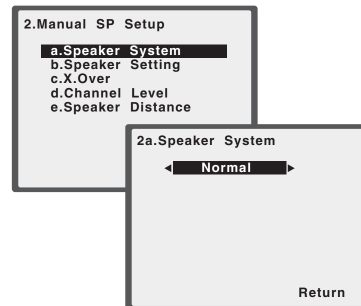


スピーカーシステムの設定を行う

- 工場出荷時の設定：Normal

本機のスピーカー端子はさまざまな接続方法に対応します。スピーカーの接続方法にしたがって設定を行ってください。

1 Manual SP Setupの設定項目から「Speaker System」を選択する。



2 ⬅/➡ボタンでスピーカー B端子の用途を選択する。

- **Normal** – 通常の5.1 chサラウンドシステムの接続です（プラン【A】）。
- **Speaker B** – 他の部屋にスピーカー Bシステムを設置して、ステレオ音声を楽しめます（プラン【B】）。
- **Bi-Amp** – フロントスピーカーをバイアンプ接続し、高音質に再生します（プラン【C】）。
- **Surr.Back Single** – サラウンドバックスピーカーを1台接続します（プラン【D】）。

3 戻るボタンを押して終了する。

Manual SP Setupの設定画面に戻ります。

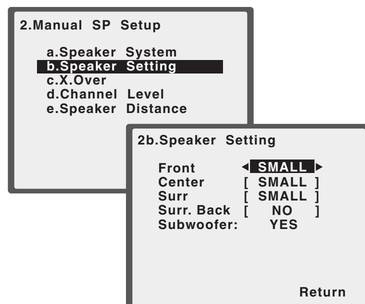
重要

- スピーカーシステムの設定を変更した場合は、スピーカーの自動設定(→15ページ)を再度行ってください。

スピーカーの設定を行う

スピーカーの大きさや本数を設定して、再生する音域を最適なチャンネルへ配分します。

1 Manual SP Setupの設定項目から「Speaker Setting」を選択する。



2 ⬆/⬇ボタンで設定したいスピーカーを選んで、⬅/➡ボタンで大きさを選択する。

スピーカーごとに以下の設定を選べます。

スピーカー	選択項目
Front (フロント)	LARGE ／ SMALL
Center (センター)	LARGE ／ SMALL ／ NO
Front Height (フロントハイト)	LARGE ／ SMALL ／ NO
Surr (サラウンド)	LARGE ／ SMALL ／ NO
Surr. Back (サラウンドバック)	LARGEX1 ／ LARGEX2 ／ SMALLX1 ／ SMALLX2 ／ NO
Subwoofer (サブウーファー)	YES ／ PLUS ／ NO

- **フロントスピーカー**
  低音域の再生能力が高い場合はLARGEを、低い場合はSMALLを選びます。
- **センター/フロントハイト/サラウンドスピーカー**
  低音域の再生能力が高い場合はLARGEを、低い場合はSMALLを選びます。接続しない場合はNOを選びます(そのチャンネルの音声は、他のスピーカーから出力されます)。
- **サラウンドバックスピーカー**
  接続している本数を選んでください(1本または2本)。低音域の再生能力が高い場合はLARGEを、低い場合はSMALLを選びます。接続しない場合はNOを選びます(サラウンドバックチャンネル音声は、他のスピーカーから出力されます)。
- **サブウーファー**
  SMALLに設定されたスピーカーの低音域とLFE信号(ドルビーデジタルやDTS信号に含まれる超低域信号成分)をサブウーファーから再生するときはYESを選びます。サブウーファーから常に低音を再生したいときや、低音を強調したいときはPLUSを選びます(このとき、通常はフロントやセンタースピーカーで再生している低音域をサブウーファーでも再生します)。また、サブウーファーを接続していないときはNOを選びます(このとき低音域は他のLARGEに設定されたスピーカーで再生されます)。

3 戻るボタンを押して終了する。

Manual SP Setupの設定画面に戻ります。

お知らせ

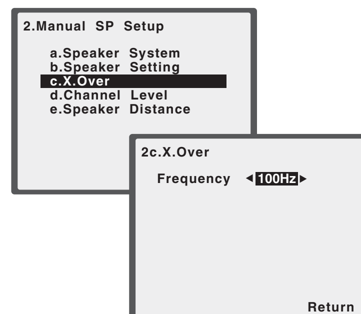
- フロントハイトスピーカーは、プリアウト端子の設定(→29ページ)でHeightを選んでいるときのみ設定できます。
- サラウンドバックスピーカーは、プリアウト端子の設定(→29ページ)でSurr. Backを選んでいるときのみ設定できます。
- フロントスピーカーがSMALLに設定されているときは、サブウーファーは自動的にYESに設定されます。また、他のスピーカーでLARGEを選択できません。このとき、各チャンネルの低音域はサブウーファーから出力されます。
- サラウンドスピーカーがNOに設定されているときは、フロントハイトおよびサラウンドバックスピーカーは自動的にNOに設定されます。
- サブウーファーをPLUSに設定した場合、サブウーファーの低音域とフロントスピーカーの低音域が打ち消し合ってしまい、十分な低音の効果が発揮されないことがあります。このようなときは、スピーカーの設置場所や向きなどを変えてみてください。それでも解消されないときは実際に音を出しながらサブウーファーをYESにしたり、フロントスピーカーをSMALLにしてみて比較し、最適な設定にしてください。

クロスオーバー周波数を設定する

- 工場出荷時の設定：100Hz

スピーカーの設定(→28ページ)でSMALLに設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域をLARGEに設定されたスピーカーまたはサブウーファーで再生するかを設定します。また、LFE信号についても同様に、何Hz以下の低音域を再生するかが設定されます。

1 Manual SP Setupの設定項目から「X.Over」を選択する。



2 ⬅/➡ボタンでクロスオーバー周波数を選ぶ。

ここで選択された周波数以下の低音域は、サブウーファーまたはLARGEに設定されたスピーカーから再生されます。

3 戻るボタンを押して終了する。

Manual SP Setupの設定画面に戻ります。

お知らせ

- スピーカーの大きさなどの設定については、「スピーカーの設定を行う」(左記)をご覧ください。

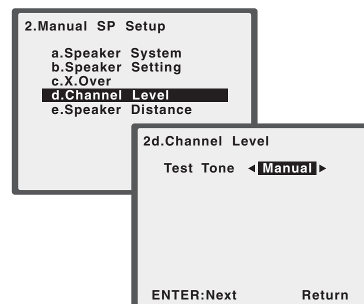
スピーカー出力レベルを設定する

各スピーカーの出力レベルを設定することで、スピーカーシステム全体のバランスを調整します。

⚠ 注意

- スピーカー出力レベルの設定では、テストトーンが大音量で出力されます。

1 Manual SP Setupの設定項目から「Channel Level」を選択する。

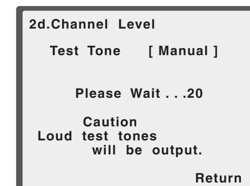


2 ⬅/➡ボタンで設定方法を選ぶ。

- Manual － テストトーンを出力するスピーカーを手動で切り換えて調整します。
- Auto － テストトーンを出力するスピーカーが自動で切り換わります。

3 ENTERボタンを押す。

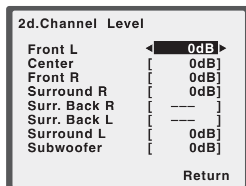
音量が自動的に上がり、大きな音でテストトーンが出力されます。



4 ⬅/➡ボタンで各スピーカーの出力レベルを調整する。

Manualを選んだときは、⬆/⬇ボタンでスピーカーを選択します。Autoを選んだときは、以下の順番でテストトーンが出力されます。

L→C→R→SR→SBR→SBL→SL→SW



テストトーンを聞きながら、各スピーカーの出力レベルを調整してください。

5 戻るボタンを押して終了する。

Manual SP Setupの設定画面に戻ります。

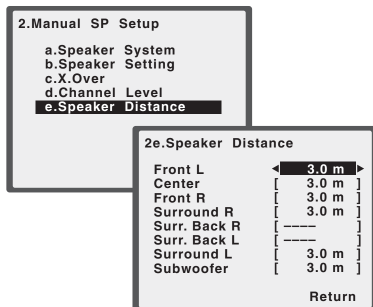
お知らせ

- 音圧計を使用して出力レベルを調整する場合は、視聴位置で測定して、各スピーカーの出力レベルを75 dB SPL（C-ウェイト／スローモード）に調整してください。

スピーカーまでの距離を設定する

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定することで、各チャンネルの遅延時間が自動的に算出され、最適なサラウンド効果を得ることができます。

1 Manual SP Setupの選択項目から「Speaker Distance」を選択する。



2 ⬆/⬇ボタンで設定するスピーカーを選んで、⬅/➡ボタンで各スピーカーまでの距離を設定する。

0.1 m間隔で調整できます。

3 戻るボタンを押して終了する。

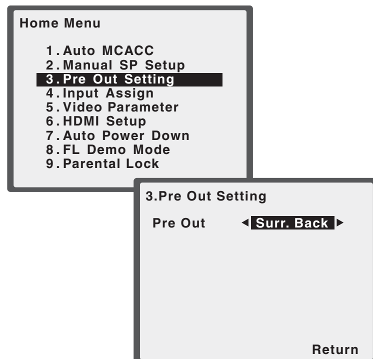
Manual SP Setupの設定画面に戻ります。

プリアウト端子の設定を行う

プリアウト端子をサラウンドバックスピーカーまたはフロントハイトスピーカーの接続に使用するかを指定します。スピーカーの接続には外部アンプが必要です。

- 工場出荷時の設定：Surr.Back

1 ホームメニュー画面の中から「Pre Out Setting」を選択する。



- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は27ページをご覧ください。

2 ⬅/➡ボタンでプリアウト端子の用途を選ぶ。

- Surr.Back － サラウンドバックスピーカーの接続に使用します。
- Height － フロントハイトスピーカーの接続に使用します。

3 戻るボタンを押して終了する。

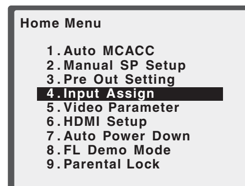
ホームメニュー画面に戻ります。

アナログビデオ入力端子の設定を行う

アナログコンポジットビデオ入力はANALOG AUX入力に割り当てられていますが、DIGITAL AUXまたはCD入力の映像入力端子として使用するように設定を変更できます。

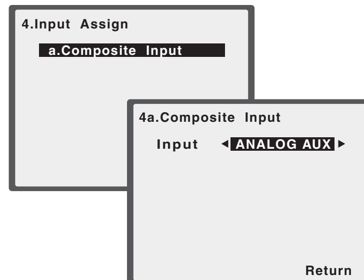
- 工場出荷時の設定：ANALOG AUX

1 ホームメニュー画面の中から「Input Assign」を選択する。



- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は27ページをご覧ください。

2 Input Assignの設定項目から「Composite Input」を選択する。



3 ⬅/➡ボタンでアナログコンポジットビデオ入力に割り当てたい入力を選ぶ。

4 戻るボタンを押して終了する。

Input Assignの設定画面に戻ります。

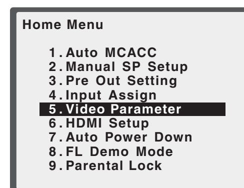
ビデオパラメーターの設定を行う

本機はコンポジット（アナログ）で入力した映像信号を変換してHDMI端子から出力するビデオコンバーターを搭載しています。以下の内容について設定が可能です。

ビデオコンバーターの設定

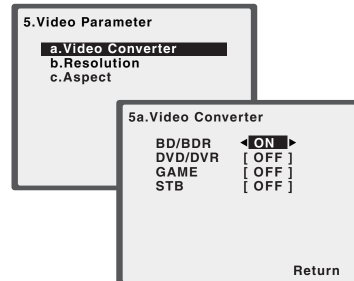
コンポジットで入力した映像信号を変換してHDMI端子から出力させるかどうかの設定です。OFFを選択すると、解像度およびアスペクト比の設定はできなくなります。

1 ホームメニュー画面の中から「Video Parameter」を選択する。



- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は27ページをご覧ください。

2 Video Parameterの設定項目から「Video Converter」を選択する。



3 ⬆/⬇ボタンで端子を選び、⬅/➡ボタンで映像の変換のオン/オフを選択する。

- ON － コンポジット入力の映像信号がHDMI端子からも出力されます。
- OFF － 各HDMI端子の入力映像がHDMI端子から出力されます。コンポジット入力の映像信号はHDMI端子からは出力されません。

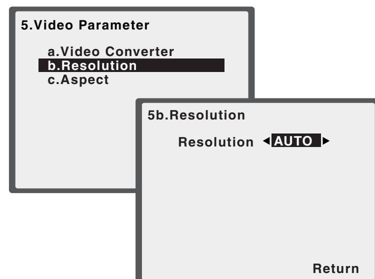
4 戻るボタンを押して終了する。
Video Parameterの設定画面に戻ります。

解像度の設定

HDMI端子から出力される映像信号の解像度を設定します。

1 ホームメニュー画面の中から「Video Parameter」を選択する。

2 Video Parameterの設定項目から「Resolution」を選択する。



3 ⬅/➡ボタンで解像度の設定を選択する。
- AUTO －HDMIで接続したテレビの解像度に合わせて、自動的に出力解像度が設定されます。
- PURE － 入力した映像の解像度でそのまま出力されます。
- 480p/720p/1080i/1080p － ここで選んだ解像度で出力されます(480pとは、480p/576pを意味します。)。

4 戻るボタンを押して終了する。
Video Parameterの設定画面に戻ります。

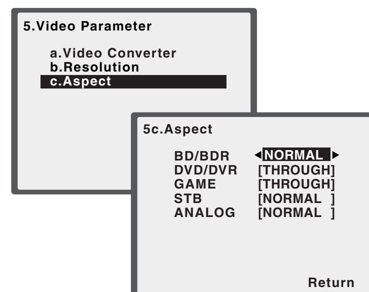
お知らせ
- テレビ(モニター)が対応していない解像度に設定した場合は映像が出なくなります。また、著作権保護されている映像信号は映像が出ないことがあります。そのときは設定を変更し直してください。

アスペクト比の設定

アナログ映像信号をHDMI端子から出力させる際のアスペクト比を設定します。お手持ちのテレビに合わせた設定を選んでください(正しく設定しないと、画面の上下または左右に黒帯が表示されたり、映像が欠けて表示されます)。

1 ホームメニュー画面の中から「Video Parameter」を選択する。

2 Video Parameterの設定項目から「Aspect」を選択する。



3 ⬅/➡ボタンでアスペクト比の設定を選択する。
- THROUGH － 入力した映像のアスペクト比でそのまま出力されます。
- NORMAL － 画面の上下または左右に黒帯が表示されます。

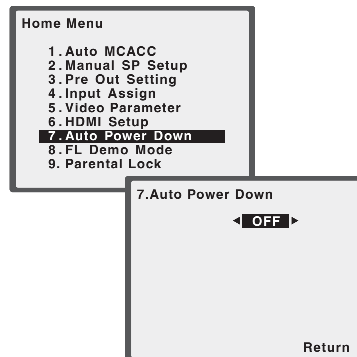
4 戻るボタンを押して終了する。
Video Parameterの設定画面に戻ります。

お知らせ
- テレビ(モニター)に映像が正しく表示されないときは、映像を出力しているソース機器およびテレビ(モニター)のアスペクト設定を行ってください。
- ANALOGはコンポジットビデオ入力を指します。ANALOG AUX、DIGITAL AUXまたはCD入力の中から、アナログビデオ入力端子の設定で指定した入力が選ばれます。

自動電源オフの設定を行う

本機の電源がオンのときに、長時間何も操作していない場合に自動的に電源をオフにするように設定できます。
- 工場出荷時の設定：OFF

1 ホームメニュー画面の中から「Auto Power Down」を選択する。



- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は27ページをご覧ください。

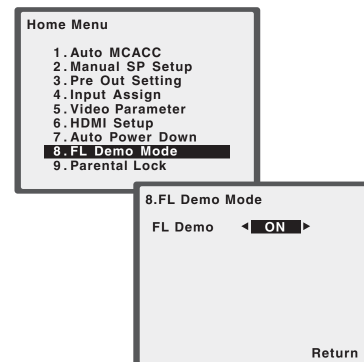
2 ⬅/➡ボタンで電源がオフになるまでの時間を選ぶ。
2/4/6時間、またはOFF（自動電源オフしない）を選びます。

3 戻るボタンを押して終了する。
ホームメニュー画面に戻ります。

デモ表示の設定を行う

本機のフロントパネル表示部のさまざまなデモ表示について、表示する/しないを選びます。

1 ホームメニュー画面の中から「FL Demo Mode」を選択する。



- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は27ページをご覧ください。

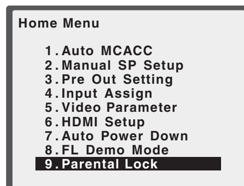
2 ⬅/➡ボタンでデモ表示のON/OFFを選ぶ。

3 戻るボタンを押して終了する。
ホームメニュー画面に戻ります。

ネットワーク機能の使用制限を行う

ネットワーク機能（NETWORK入力）の使用制限の設定をします。使用制限にともない暗証番号の設定も行います。

1 ホームメニュー画面の中から「Parental Lock」を選択する。



2 暗証番号を入力する。

⬆/⬇ボタンで入力する文字を選んで、⬅/➡ボタンでカーソルを動かします。

- 工場出荷時の暗証番号は「0000」に設定されています。

3 「Parental Lock」を選んでから、ペアレンタルロック機能のON/OFFを選んで決定する。

- OFF：ネットワーク機能の使用制限をしません。
- ON：ネットワーク機能の使用を制限します。NETWORK入力は使用できなくなります。

4 戻るボタンを押して終了する。

ホームメニュー画面に戻ります。

お知らせ

- 手順3で「Change Password」を選ぶと、暗証番号を変更できます。

HDMIによるコントロール機能

HDMIによるコントロール機能対応のパイオニア製テレビやブルーレイディスクプレーヤー、またはHDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品などを、HDMIケーブルで本機と接続することで、以下のような連動動作が可能になります。

- **シアターモード**
  テレビから本機の音量調節や消音（ミュート）操作
- **テレビとの電源連動**
- **自動入力切り換え**
  テレビの入力切り換えやプレーヤーなどの再生開始による、本機の自動入力切り換え

お知らせ

- パイオニア製の機器によっては、HDMIによるコントロール機能が「KURO LINK」と表記されていることがあります。
- パイオニア製HDMIによるコントロール機能対応機器、およびHDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品（→32ページ）以外との連動動作は保証外です。HDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品であっても、すべての連動操作を保証するものではありません。
- HDMIによるコントロール機能を使うときはハイスピードHDMIケーブルをお使いください。それ以外のHDMIケーブルではHDMIによるコントロール機能が正しく動作しないことがあります。
- 具体的な操作や設定方法などについては、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

HDMIによるコントロール機能対応機器を接続する

本機にはHDMIによるコントロール機能対応テレビのほかに、最大3台のHDMI機器を接続して連動動作させることができます。接続にはハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。接続方法については、「HDMIケーブルによる接続」（→10ページ）をご覧ください。接続が終わったら「コントロール機能を設定する」（→右記）を行ってください。

- お手持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応している場合は、HDMIケーブルを通じてテレビの音声を本機に入力できます。この場合、HDMI設定のARCをONに設定してください（→右記）。

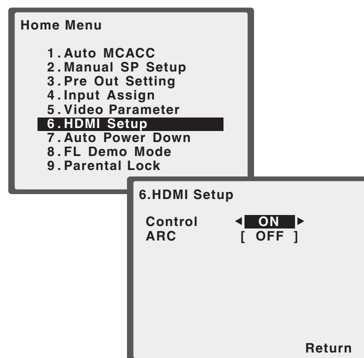
お知らせ

- HDMIによるコントロール機能対応機器の接続終了後、本機の電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源が入ります。この際、HDMIに関する初期化動作を2秒から10秒程度行います。初期化中はHDMIインジケーターが点滅します。本機の操作は点滅が終了してから行ってください。「コントロール機能を設定する」（→下記）でHDMIによるコントロール機能をOFFにすることで、この処理は行われなくなります。
- 本機のHDMIによるコントロール機能を十分に発揮するために、HDMI機器は本機に直接接続してください。

コントロール機能を設定する

本機のHDMIによるコントロール機能を有効にするかどうかを設定します。本機の設定以外にも、本機と接続するHDMIによるコントロール機能対応機器の設定も必要です。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

1 ホームメニュー画面の中から「HDMI Setup」を選択する。



- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は27ページをご覧ください。

2 ⬅/➡ボタンでコントロール機能（Control）のON/OFFを選ぶ。

- ON － HDMIによるコントロール機能が有効になります。
- OFF － HDMIによるコントロール機能は無効になり、連動動作することはできません。

3 ⬆/⬇ボタンで「ARC」を選んでから、⬅/➡ボタンでオーディオリターンチャンネルのON/OFFを選ぶ。

- ON － HDMI経由でテレビの音声を入力します。手順2のControlがONのときのみ選択できます。テレビの設定も必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- OFF － テレビの音声を入力するには、テレビとオーディオケーブルで接続した入力を選びます。

4 戻るボタンを押して終了する。

ホームメニュー画面に戻ります。

連動動作を開始する前に動作確認する

接続と設定が終了したら、下記の確認作業を必ず行ってください。

1 すべての機器をスタンバイ状態にする。

2 テレビ以外のすべての機器の電源をオンにする。

3 テレビの電源をオンにする。

4 テレビの入力を本機が接続されたHDMI入力に切り換える。

5 本機の入力をHDMI機器が接続されたHDMI入力に切り換える。

6 手順5で選んだHDMI入力に接続した機器を再生する。

テレビに映像が表示されることを確認します。

7 手順5〜6を繰り返し、すべてのHDMI入力を確認する。

連動中の動作について

本機と接続したHDMIによるコントロール機能対応機器は、以下のような連動動作をします。

- **シアターモード**
  - HDMIによるコントロール機能対応テレビのメニュー画面等でアンプから音を出すように操作すると、シアターモードにすることができます。
  - シアターモードのときに、本機の電源を切ることでシアターモードは解除されます。このときテレビのメニュー画面等でアンプから音を出すように操作すると、本機の電源がオンになり、再度シアターモードになります。
  - シアターモードのときに、テレビのメニュー画面等でテレビから音を出すように操作すると、シアターモードが解除されます。
  - シアターモードを解除すると、テレビでHDMI入力またはテレビ放送を視聴していた場合、本機の電源が切れます。
- **テレビとの電源連動**
  - テレビの電源をスタンバイ状態にすると、本機の電源もスタンバイ状態になります。（本機にHDMI接続されている機器の入力を選択しているときや、テレビを視聴している場合のみ。）
- **自動入力切り換え**
  - HDMIによるコントロール機能対応機器の再生操作に連動して、本機の入力が自動的に切り換わります。
  - テレビの入力を切り換えると、本機の入力が連動して切り換わります。
  - 本機の入力をHDMI以外に切り換えても連動動作は継続されます。

HDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品と接続する

本機のHDMIによるコントロール機能との互換性がある他社製テレビと接続してお使いになると、下記の連動動作ができます。

(お使いのテレビによっては、すべてのHDMIによるコントロール機能が働くわけではありません。)

- テレビのメニュー画面で、本機に接続したスピーカーから音を出すか、テレビのスピーカーから音を出すか、どちらかに設定できます。
- テレビのリモコンで、本機の音量調節や消音(ミュート)操作ができます。
- テレビの電源をスタンバイ状態にすると、本機の電源もスタンバイ状態になります。（本機にHDMI接続されている機器の入力を選択しているときや、テレビを視聴している場合のみ。）
- テレビ放送やテレビに接続した外部入力の音声も、本機に接続したスピーカーから出力できます。（HDMIケーブルのほかに光デジタルケーブルなどの接続が必要です。）

本機のHDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製プレーヤーやレコーダーと接続してお使いになると、下記の連動動作ができます。

- プレーヤーやレコーダーの再生を開始すると、本機の入力がその機器を接続しているHDMI入力に切り換わります。

お知らせ

HDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品

以下の他社製テレビと互換性があります。(順不同)

- シャープ株式会社製AQUOSファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」
- パナソニック株式会社製ビエラリンク対応のテレビ
- 株式会社東芝製レグザリンク対応のテレビ
- 株式会社日立製作所製Woooリンク対応のテレビ
- ソニー株式会社製ブラビアリンク対応の液晶テレビ「ブラビア」

以下の他社製プレーヤーやレコーダーと互換性があります。（順不同）

- 株式会社シャープ製AQUOSファミリンク対応のデジタルハイビジョンレコーダー「AQUOSハイビジョンレコーダー」、ブルーレイディスクレコーダー「AQUOSブルーレイ」（株式会社シャープ製AQUOSファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」とあわせてお使いのときのみ）
- パナソニック株式会社製ビエラリンク対応のプレーヤーおよびレコーダー（パナソニック株式会社製ビエラリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
- 株式会社東芝製レグザリンク対応のプレーヤーおよびレコーダー（株式会社東芝製レグザリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
- 株式会社日立製作所製Woooリンク対応のレコーダー（株式会社日立製作所製Woooリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
- ソニー株式会社製ブラビアリンク対応のブルーレイディスクプレーヤーおよびレコーダー（ソニー株式会社製ブラビアリンク対応の液晶テレビ「ブラビア」とあわせてお使いのときのみ）

以下の他社製商品と互換性があります。

- 株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント製ブラビアリンク対応の「プレイステーション 3」（ソニー株式会社製ブラビアリンク対応の液晶テレビ「ブラビア」とあわせてお使いのときのみ）

上記以外の他社製品との連動動作は保証外です。

互換性のある他社製品の型名など最新の情報については、パイオニアホームページ(http://pioneer.jp/)をご覧ください。

※ AQUOSファミリンクは、シャープ株式会社の登録商標です。

※ その他文中の商品名、技術名および会社名等は、当社や各社の商標または登録商標です。

※ ブラビアリンクは、ソニー株式会社の登録商標です。

※「プレイステーション」は、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

※ その他文中の商品名、技術名および会社名等は、当社や各社の商標または登録商標です。

HDMIによるコントロール機能についてのご注意

- HDMIによるコントロール機能対応テレビの音声出力と本機の音声入力を接続し、HDMIによるコントロール機能対応テレビのリモコンでシアターモードにすることで、テレビの入力を切り換えたときなど、本機の入力が自動で切り換わり本機から音が出るようになります。このときテレビの音声は消音されます。接続は光デジタルまたはアナログのいずれかで接続してください。
- テレビやソース機器(ブルーレイディスクプレーヤーなど)は本機に直接接続してください。本機以外のアンプやAVコンバーター（HDMIスイッチ)などに接続してから本機に接続すると、誤動作の原因となります。
- HDMIによるコントロール機能がONの状態で、本機の電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源が入ります。この際、HDMIに関する初期化動作を2秒から10秒程度行います。初期化中はHDMIインジケーターが点滅します。本機の操作は点滅が終了してから行ってください。
- 本機のHDMIによるコントロール機能がONのときは、本機の電源がスタンバイ状態であっても、HDMIによるコントロール機能対応機器(ブルーレイディスクプレーヤーなど)と対応テレビで接続しているときのみ、本機から音を出さずにプレーヤーからの音声と映像をHDMIを通してテレビに出力できます。このときHDMIインジケーターが点灯します。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら下記の項目を確認してください。また、本機と接続している機器(テレビなど)もあわせて確認してください。それでも正常に動作しないときは『保証とアフターサービス』(→28ページ)をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

症状	改善策
全般	
電源が入らない。	• 電源プラグを抜いて、もう一度差し込んでください。
自動的に電源が切れる。	• 自動電源オフ機能がONの場合、本機を長時間操作していないと自動的に電源がオフになります。自動電源オフ機能の設定を確認してください(→30ページ)。 • スピーカーコードの芯線がリアパネルに接触していたり、プラスとマイナスがショートしていないか確認してください。接触していたりショートしていると、電源が自動的に切れます。 • すべてのスピーカーコードを外して電源を入れてみてください。電源が正常な場合は、電源を切ってからスピーカーコードを正しく接続し直してください。スピーカーコードを外しても電源が切れてしまうときは、電源プラグを抜いて、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください(裏表紙参照)。
自動的に電源が入る、電源が切れる。入力が勝手に切り換わる。(HDMIによるコントロール機能がオンの場合)	• HDMIによるコントロール機能の連動動作です。連動動作が不要な場合は、HDMIによるコントロール機能をオフにしてください(→31ページ)。
OVERHEATと表示されて、電源が切れる。	• 本機内部の温度が許容値を超えています。通風が良くなるように、本機の設置を変えてください(→3ページ)。 • 音量を下げて使用してください。
OVER TEMPと表示されて、音量が勝手に下がる。	• 本機内部の温度が許容値を超えています。通風が良くなるように、本機の設置を変えてください(→3ページ)。 • 音量を下げて使用してください。
入力を合わせても音声が出ない。	• **音量**ボタンを押して、音量を上げてください。 • **消音**ボタンを押して、ミュートを解除してください。 • 機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「機器の接続」(→9ページ)をご覧ください。 • ソース機器の設定が間違っている可能性があります。ソース機器を正しく設定してください(→9ページ)。
入力を合わせても映像が出ない。	• 機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「機器の接続」(→9ページ)をご覧ください。 • ソース機器とTVモニターを接続しているコードの種類が違っていて、ビデオ調整機能のビデオコンバーターの設定がOFFになっている場合は、ビデオコンバーターの設定をONにしてください。 • ビデオゲームなどの入力機器は解像度の変換を行われないことがあります。本機と入力機器の解像度の設定を行っても正しく表示されない場合は、ビデオコンバーターの設定をOFFにしてください。

症状	改善策
AMラジオのオートチューニング中に、スピーカーからプツプツと音が出る。	• 受信性能を向上させるためであり、故障ではありません。
ラジオ受信中に雑音が多い、放送局が自動的に選ばれない。	• 受信が良好になるようにFMアンテナケーブルを十分に伸ばして壁に貼り付けるなどしてください。 • 受信が良好になるようにAMループアンテナの位置や方向を変えてください(→13ページ)。 • FM屋外アンテナやAM屋外アンテナ、または室内アンテナを接続してください。 • 雑音を生じさせる機器の電源を切るか、本機やアンテナから遠ざけてください。
センター、サラウンド、サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーから音が出ない。	• 入力信号やリスニングモードによっては、一部のスピーカーから音が出ないことがあります。**ADV SURR**ボタンを繰り返し押して、**EXT.STEREO**モードを選んでみてください。 • スピーカーが正しく接続されているか確認してください(→7ページ)。 • 「スピーカーの設定を行う」(→27ページ)をもう一度確認してください。 • 「スピーカー出力レベルを設定する」(→28ページ)でスピーカーの出力レベルをもう一度確認してください。
サブウーファーから音が出ない。	• サブウーファーを正しく接続して、電源を入れてください。 • サブウーファーに音量調整機能があれば、ボリュームを上げてください。 • 再生しているドルビーデジタルやDTS信号の中に低音域のLFEチャンネルが含まれていないと、サブウーファーから音が出ないことがあります。 • 「スピーカーの設定を行う」(→28ページ)でサブウーファーをYESまたはPLUSに設定してください。 • 「LFEATT (LFEアッテネーター)」(→26ページ)を0dBまたは−5dBにしてください。
特定のスピーカーの音が小さい。	• スピーカーの自動設定を行ってください(→15ページ)。 • ホームメニュー設定でスピーカー出力レベルを設定してください(→28ページ)。
低音が出ない、音声がひずむ。	• パイオニア製のスピーカー S-SL100-LR/S-SL100CRやHVTスピーカー (S-HV500-LRなど)を接続しているときは、本機のクロスオーバー周波数を200 Hzに設定してください(→28ページ)。
カセットデッキを再生すると雑音が出る。	• 雑音が消えるまで、カセットデッキを本機から離してください。
リモコンで操作できない。	• リモコンが他機器の操作モードになっている可能性があります。AVアンプを押してリモコンを本機の操作モードに切り換えてから操作してみてください(→16ページ)。 • 電池を交換してください(→3ページ)。 • フロントパネルのリモコン受光部から7 m、左右30°の範囲で操作してください(→3ページ)。 • 障害物を取り除くか、別の場所に移動させてください。 • リモコン信号受光部に強い光が当たらないようにしてください。

症状	改善策
ディスプレイの表示が暗い、または表示されない。	• リモコンの**ディマー**ボタンを押して、表示部の明るさを選択してください。 • エコモードを選んでいる場合は、ディスプレイの表示が暗くなります。エコモードを解除すると、元の明るさに戻ります。
ディスプレイに勝手にさまざまな文字が表示される。	• デモ表示がオンになっています。デモを表示させたくない場合は、デモ表示をオフにしてください(→30ページ)。
何らかの操作のあと、ディスプレイ表示が点滅する。	• 操作禁止を意味します。入力信号やリスニングモードによっては選択できない機能があります。
iPod/iPhone	
iPod touch/iPhoneが本機で認識されない。	• 以下の操作を行ってみてください。 ① iPod touch/iPhoneのスリープ／スリープ解除ボタンとホームボタンを同時に10秒以上押し続け、再起動します。 ② 本機の電源をオンにします。 ③ iPod touch/iPhoneを本機に接続します。
USBメモリー	
USBメモリーが本機で認識されない。	• 一度電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。 • USB端子に正しく接続されているかどうか確認してください。 • USBメモリーのフォーマットがFAT16またはFAT32であるかどうか確認してください。FAT12、NTFS、HFSは本機で再生することができません。 • USBハブには対応していません。
メッセージが表示されてUSBメモリーの再生ができない。	• 18ページの「お知らせ」をご覧になり操作してみてください。それでもメッセージが表示されるときは、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください。
USBメモリーのファイルを再生できない。	• 著作権保護のかかったWMAやMPEG-4 AACのファイルを本機で再生することはできません(パソコンなどでCDなどの音楽データを取り込む場合、設定によっては著作権保護がかかることがあります)。 • 再生しようとしているファイルの圧縮フォーマットに本機が対応しているかどうか確認してください(→44ページ)。
リモコンの▶ボタンを押してもUSBを再生しない。	• リモコンがUSBモードになっていません。**iPod USB**を押してリモコンをUSBモードにしてください。

症状	改善策
ADAPTER PORT	
*Bluetooth*機能搭載機器と接続できない、操作できない、音が出ない、音がとぎれる。	• 2.4 GHz帯の電磁波を発する機器(電子レンジ、無線LAN機器、他の*Bluetooth*機能搭載機器など)が近くにありませんか？これらの機器から本機を離して設置するか、電磁波を発する他の機器の使用をおやめください。 • *Bluetooth*機能搭載機器と本機が離れすぎていたり、間に障害物がありませんか？同じ部屋で障害物のない、見通し距離10 m以内に設置してください。 • BLUETOOTHアダプターは本機のADAPTER PORT端子に正しく接続されていますか？接続を確認してください(→12ページ)。 • *Bluetooth*機能搭載機器が*Bluetooth*無線通信できる状態になっていますか？ *Bluetooth*機能搭載機器の設定を確認してください(→21ページ)。 • ペアリングが正しく行われていなかったり、本機か*Bluetooth*機能搭載機器側のどちらかでペアリングの設定を消去しませんでしたか？再度ペアリングの操作を行ってください(→21ページ)。 • 接続したい機器はプロファイルに対応していますか？ A2DPおよびAVRCPに対応した*Bluetooth*機能搭載機器を使用してください。
NETWORK	
ネットワークに接続できない。	• LANケーブルが抜けています。LANケーブルを正しく接続してください。 • ルーターの電源が入っていません。ルーターの電源を入れてください。 • 接続している機器にインターネットセキュリティーソフトウェアなどがインストールされている。インターネットセキュリティーソフトウェアなどがインストールされている機器には接続できないことがあります。 • 本機の電源がONの状態で、電源がOFFだったネットワーク上の機器の電源をONにしました。本機の電源をONにする前にネットワーク上の機器の電源をONにしておいてください。
「Connecting Wired...」と表示されたまま再生が始まらない。	• 接続している機器の電源や接続が切れています。接続している機器の電源や接続を確認してください。
パソコンおよびインターネットラジオが正しく動作しない。	• IPアドレスが正しく設定されていません。ルーターのDHCPサーバー機能をオンにするか、ネットワーク環境に合わせて、本機のネットワークの設定を手動で行ってください。 • IPアドレスの自動設定中です。自動設定には時間がかかります。しばらくお待ちください。

症状	改善策
パソコンなどのネットワーク上の機器の音楽ファイルが再生できない。	• パソコンにWindows Media Player 11または12がインストールされていない。パソコンにWindows Media Player 11または12をインストールしてください。 • 音楽ファイルが、MP3 、WAV (LPCM のみ)、MPEG-4 AAC、FLAC、WMA 以外のフォーマットで記録されています。MP3 、WAV (LPCM のみ)、MPEG-4 AAC、FLAC、WMA で記録された音楽ファイルを再生してください(それらファイルであっても本機で再生できないこともあります)。 • Windows Media Player 11または12でMPEG-4 AACやFLACファイルを再生しようとしています。Windows Media Player 11または12ではMPEG-4 AACやFLACファイルを再生することはできません。他のサーバーを使用してください。 • ネットワークに接続している機器が動作していません。待機状態やスリープモードになっていないか確認してください。必要に応じて再起動してみてください。 • ネットワークに接続している機器がファイルの共有を許可していません。接続している機器の設定を変更してください。 • ネットワークに接続している機器のフォルダーが削除または破損しています。接続している機器に保存されているフォルダーを確認してください。
接続しているネットワーク上の機器にアクセスできない	• 接続している機器の設定が正しくありません。クライアントを自動で承認(許可)したときは、改めて入力する必要があります。接続の設定が「許可しない」になっていないか確認してください。 • 接続している機器に再生できるファイルがありません。接続している機器に保存されているファイルを確認してください。
音声が自動で停止したり乱れたりする	• 本機で正常に再生できるファイルではありません。 － 本機で再生できるファイルフォーマットか確認してください。 － フォルダーが壊れていないか確認してください。 － 本機で再生できる拡張子がついたファイルでも再生できないことや表示されないことがあります。 • LANケーブルが抜けています。LANケーブルを正しく接続してください。 • 同一ネットワーク上でインターネット通信が行われているなど、ネットワークの通信が混雑しています。ネットワーク上の機器と接続するときは100BASE-TXをご使用ください。
Windows Media Player 11または12に接続できない	• OSにWindows XPまたはWindows 7を使用しているパソコンで、ドメインにログオンしています。ドメインではなく、ローカルマシンにログオンしてください。
インターネットラジオが再生できない	• ネットワーク機器のファイアウォールが働いています。ネットワーク機器のファイアウォールの設定を確認してください。 • インターネットの接続が切断されています。ネットワーク機器の設定が正しいことを確認し、必要に応じてネットワーク接続業者にお問い合わせください。 • ラジオ局の放送が中止、中断されています。放送局リストで選択できる放送局でも再生できないことがあります。

症状	改善策
無線LANコンバーター（別売り）使用時の問題	
無線LAN経由でネットワークにアクセスできない。	• 無線LANコンバーターの電源が入っていません(無線LANコンバーターの「Power」、「WPS」および「Wireless」ランプすべてが点灯していない)。無線LANコンバーターと本機のDC OUTPUT for WIRELESS LAN端子を接続しているUSBケーブルが正しく接続されているか確認してください。 • 本機の表示窓に「WLAN POW ERR」が表示される。 － 無線LANコンバーター用の電源に問題があります。本機の電源をオフにしてから、USBケーブルを抜き、再度USBケーブルを差し、本機の電源をオンにしてください。 － 上記操作を数回繰り返しても、「WLAN POW ERR」が表示される場合は、本機かUSBケーブルに問題があります。電源コードを抜いて修理を依頼してください。 • LANケーブルを接続していません。無線LANコンバーターと本機のLAN (10/100)端子をLANケーブルで正しく接続してください。 • 無線LANコンバーターと無線LANルーターなどの親機との間に距離があったり、障害物があります。無線LANコンバーターと親機との距離を近づけるなど無線LAN環境を改善してください。 • 電子レンジなど電磁波が発生する近くに無線LAN環境があります。 － 電子レンジなど電磁波が発生する場所から離して使用してください。 － 無線LANで使用するときは、電磁波が発生する機器をなるべく使用しないようにしてください。 • 複数の無線LANコンバーターを無線LANルーターに接続しています。複数の無線LANコンバーターを接続する場合は、無線LANコンバーターのIPアドレスを変更する必要があります。たとえば、無線LANルーターのIPアドレスが「192.168.1.1.」のときは、1つめの無線LANコンバーターのIPアドレスを「192.168.1.249」、2つめの無線LANコンバーターのIPアドレスを「192.168.1.248」にし、「249」「248」と、無線LANコンバーター同士や他の機器と重複しない2 ～ 249の値を設定してください。 • 無線LANコンバーターと無線LANルーターなどの親機との無線LAN接続ができていません。無線LAN接続には、無線LANコンバーターの設定が必要です。 詳しくは、無線LANコンバーターの取扱説明書をご覧ください。

症状	改善策
無線LAN経由でネットワークにアクセスできない。（続き）	• 無線LANコンバーターを本機に正しく接続し、無線LANコンバーターのランプも点灯しているが、本機から無線LANコンバーターの設定ができない(設定画面を表示できない)。 － 無線LANコンバーターを本機に接続した状態で、本機の電源を切ってから電源コードをコンセントから抜き指しし、その後本機の電源を入れてください。 － 本機のNetwork Settingsの中のNetwork Modes設定をSTATICに設定してIPアドレスを手動で設定している場合、無線LANコンバーター内で設定しているIPアドレスと合っていない可能性があります。Network Modes設定をDHCPに設定して、設定終了後に本機の電源をOFFにし、再度本機の電源をONにして本機で無線LANコンバーターの設定を表示できるか確認してください。表示できた場合、必要に応じて、本機のIPアドレス設定、無線LANコンバーターのIPアドレス設定を変更してください。 • 本機と無線LANコンバーターのIPアドレス設定が無線LANルーターなどの設定と合っていません。 － 本機と無線LANコンバーターのIPアドレス設定(Network Modes設定を含む)を確認してください。 本機のNetwork Modes設定をDHCPにしているときは、本機の電源をOFFにし、再度電源をONにしてください。 本機や無線LANコンバーターのIPアドレスが無線LANルーターなどの設定と合っているかを確認してください。 本機のNetwork Modes設定をSTATICにしているときは、無線LANルーターなどの親機のネットワークに合ったIPアドレスを設定してください。 たとえば、無線LANルーターのIPアドレスが「192.168.1.1.」のときは、本機のIPアドレスを「192.168.1.XXX」(*1)、サブネットマスクを「255.255.255.0」、ゲートウェイやDNSは「192.168.1.1.」に設定してください。 次に、無線LANコンバーターのIPアドレスを「192.168.1.249」(*2)に設定してください。 (*1) 「192.168.1.XXX」の「XXX」には、他の機器と重複しない2～248の値を設定してください。 (*2) 「192.168.1.249」の「249」には、他の機器と重複しない2～249の値を設定してください。 • 無線LANコンバーターの詳細設定をしてみてください。 無線LANコンバーターをパソコンに接続して、無線LANの詳細設定ができます。詳細は、無線LANコンバーター用に付属しているCD-ROMを確認してください。無線LANルーターなどの設定を確認のうえ、無線LANコンバーターの設定を変更してください。 ただし、無線LANの詳細設定で無線LAN環境が改善できるとは限りません。設定変更にはご注意ください。 • アクセスポイントがSSIDを隠す設定をしています。 この場合、アクセスポイントのリスト画面に表示されないことがあります。表示されない場合は、本機側の無線LANコンバーターのマニュアル設定でSSID等を設定してください。

症状	改善策
無線LAN経由でネットワークにアクセスできない。（続き）	• アクセスポイントのセキュリティ設定が、WEPの152 bit長の暗号KEYまたはSHARED KEY認証を使用しています。 本機は、WEPの152 bit長の暗号KEYならびにSHARED KEY認証には対応していません。 • 上記の対処をしてもネットワーク接続できない。 無線LANコンバーターを初期化してください。その後、無線LANコンバーターの設定をやり直してください。 － 初期化について 1. 無線LANコンバーターの電源が入っていることを確認してください。 2. 無線LANコンバーターのリセットボタンを3秒以上押してください。 3. リセットボタンを放してください。 無線LANコンバーターが再起動したら、初期化の完了です。
HDMI	
映像と音声の両方が出ない。	• ソース機器の仕様によっては本機を通してのHDMI接続ができない場合があります。ソース機器の仕様を確認し、非対応のときはソース機器と本機をビデオケーブル(黄)で接続してください。 • 本機はHDCPに対応しています。ご使用の機器がHDCP対応かどうかをご確認ください。HDCP非対応のときはビデオケーブル(黄)で接続してください。
映像が出ない。	• ソース機器の設定によっては映像が表示されないビデオフォーマットが出力されることがあります。ソース機器の設定を変更するか、ビデオケーブル(黄)で接続してください。 • ソース機器の映像が影響している可能性があります。ソース機器の解像度設定やDeep Colorの設定などを調整してください。 • 映像信号がDeep Colorのとき、HDMIケーブルがDeep Colorに対応していないと映像が出ません。ハイスピードHDMIケーブルを使ってください。
音声が出ない、またはとぎれる。	• DVI機器と接続しているときは、音声が出ません。別途音声の接続を行ってください。 • オーディオ調整機能のHDMI設定がTHROUGHになっている場合は、本機から音は出ません。AMPに設定してください(➞26ページ)。 • HDMIによるデジタル音声伝送は、従来のデジタル音声伝送(光または同軸)に比べ、フォーマットの認識に時間がかかります。このため、音声フォーマットの切り換わりや再生スタート時に、音声がとぎれる場合があります。 • 再生中に、本機のHDMI OUTに接続している機器の電源をオン／オフしたり、HDMIケーブルを抜き差しすると、音声がとぎれたりノイズが発生する場合があります。

症状	改善策
HDMIによるコントロール機能でシアターモードが動作しない。	• HDMIによるコントロール機能をONにしてください(→23ページ)。 • テレビの電源をONにしてから本機の電源をONにしてください(→31ページ)。 • テレビ側のHDMIによるコントロール機能をONにしてください。 • エコモードがオンのときは、HDMIによるコントロール機能は動作しません(→24ページ)。 • エコモードをふたたびオフにしても、HDMIによるコントロール機能が動作しないことがあります。この場合は、「連動動作を開始する前に動作確認する」(→31ページ)をご覧になり、動作確認を行ってください。
HDMIで接続したテレビの音声が本機で聞こえない。	• テレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応している場合：HDMI設定のARCをONにして、TV入力に切り換えてください(→31ページ)。 • テレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応していない場合：HDMI経由でテレビの音声を聴くことはできません。別途オーディオケーブルの接続を行ってください(→10ページ)。

HDMI接続に関するご注意

本機を経由してソース機器(DVDプレーヤーやビデオデッキ、セットトップボックスなど)とテレビ(モニター)をHDMIケーブルを使って接続すると、映像や音声が出力されないことがあります(ソース機器の仕様により、AVアンプを経由してテレビに映像や音声を出力できないことがあります)。このようなときは、接続しているソース機器のメーカーにお問い合わせください。

AVアンプを経由してテレビに映像や音声を出力できないソース機器をそのままお使いになるときは、下記の接続例の方法に変更すると映像や音声を出力できます。

接続例

ソース機器とテレビをHDMIケーブルで直接接続してください。

本機とソース機器を、音声ケーブルを使って接続してください。このときテレビの音量は最小にしてください。

お知らせ

ソース機器によっては、デジタル音声出力が2チャンネル音声しか出力されないことがあります(これは、ソース機器がテレビの音声チャンネル数に合わせるためです)。

ソース機器を切り換えるときは、本機とテレビの入力を両方切り換えてください。

HDMI端子に入力される映像をテレビで見るときは、テレビの入力をHDMIに切り換えます。このときテレビの音量は最小に調整してください。

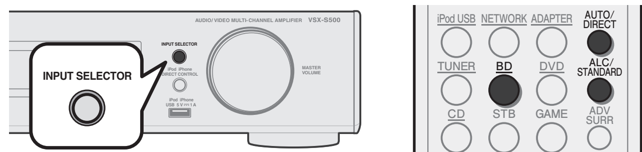
NETWORK入力のメッセージについて

NETWORK入力で以下のメッセージが表示されたときは、内容欄をご確認ください。

メッセージ	内容
List empty, Add from Now Playing...	リストが空です。Now Playingから追加してください。
No item	何もアイテムがありません。
Rescanning devices...	再検索中です。しばらくお待ちください。
Unsupported Format	本機が対応していない形式です。
Server Connection Error	サーバーに接続できません。
Error opening stream	ストリーミングエラーです。
Already in favorites	すでにお気に入りに登録されています。
Unsupported item	本機が対応していないアイテムです。
Unknown error	原因不明のエラーです。
Connection Error...	ネットワークに接続できません。

本機を初期化する

以下の手順で、本機のすべての設定を工場出荷時の状態に初期化します。



1. 本機の電源をオフ(スタンバイ状態)にする。
2. フロントパネルのINPUT SELECTORボタンを５秒以上押しながら、リモコンのBDボタンを押す。
3. 表示部にRESET?と表示されたら、リモコンのAUTO/DIRECTボタンを押す。
   表示部にOK?と表示されます。
4. リモコンのALC/STANDARDボタンを押す。
   表示部にOKと表示され、本機が工場出荷時の状態に初期化されたことを示します。

お知らせ

• HDMIによるコントロール機能がONに設定されていると、本機の初期化ができない場合があります。その場合は、HDMIによるコントロール機能をOFFにするか、すべての接続機器の電源を切ってから本機の電源をオフ(スタンバイ)にし、HDMIインジケーターが消灯するのを待ってから初期化してください。

• NETWORK入力のネットワーク設定はこの操作を行っても初期化されません。20ページの「その他の設定」をご覧になり、リセット操作を行ってください。

工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
オーディオ調整機能		
MIDNIGHT（ミッドナイト）	MID/LDN OFF	25
LOUDNESS（ラウドネス）		
BASS（低音）	0	
TREBLE（高音）	0	
CH LEV（チャンネルレベル）	0dB	
SB CH（サラウンドバックチャンネル処理）	ON	
PHASE CTRL（フェイズコントロール）	ON	
EQ（アコースティックキャリブレーションEQ）	ON	
SOUND DELAY（サウンドディレイ）	0.0フレーム	
SOUND RTRV（サウンドレトリバー）	OFF（iPod USB、NETEORK、ADAPTER入力はON）	
DUAL（デュアルモノラル）	CH1	
FIXED PCM（PCMフィックス）	OFF	
DRC（ダイナミックレンジコントロール）	AUTO	26
LFE ATT（LFEアッテネーター）	0dB	
SACD GAIN（SACDゲイン）	0 (dB)	
HDMI（HDMI音声）	AMP	
AUTO DELAY（オートディレイ）	OFF	
CENTER WIDTH（センター幅）	3	
DIMENSION（ディメンション）	0	
PANORAMA（パノラマ）	OFF	
CENTER IMAGE（センターイメージ）	3（NEO:6 MUSIC）/ 10（NEO:6 CINEMA）	
HEIGHT GAIN（ハイトゲイン）	MID	

設定項目	初期値	参照ページ
ホームメニュー設定		
Speaker System（スピーカーシステムの設定）	Normal	27
Speaker Setting（スピーカーの設定）	Front: SMALL（小）	28
	Center: SMALL（小）	
	Front Height: NO（無し）	
	Surr: SMALL（小）	
	Surr. Back: NO（無し）	
	Subwoofer:YES（有り）	
X.Over（クロスオーバー周波数）	100 Hz	
Channel Level（スピーカー出力レベル）	0 dB（補正無し）	
Speaker Distance（スピーカーまでの距離）	すべて3.0 m	29
Pre Out Setting（プリアウト端子の設定）	Surr.Back	
Input Assign [Composite Input]（アナログビデオ入力端子の設定）	ANALOG AUX	
Video Converter（ビデオコンバーターの設定）	すべてON	
Resolution（解像度の設定）	AUTO	30
Aspect（アスペクト比の設定）	すべてTHROUGH	
Auto Power Down（自動電源オフの設定）	OFF	
FL Demo Mode（デモ表示の設定）	ON	
Parental Lock（ネットワーク機能の使用制限の設定）	OFF	31
HDMIによるコントロール機能		
Control	ON	31
ARC（オーディオリターンチャンネル）	OFF	
その他		
入力ファンクション	BD/BDR	16
リスニングモード	AUTO SURR	23
ディスプレイの明るさ	一番明るい	4

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保存してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご依頼ください。ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

所在地、電話番号は裏表紙の「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に33 ～ 37ページの「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。それでも正常に動作しないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店または裏表紙に記載の修理受付窓口にご依頼ください。

ご連絡いただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：AVマルチチャンネルアンプ
- 型番：VSX-S500
- お買い上げ日
- 故障の状況（できるだけ具体的に）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

保証期間中は

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

サービス拠点のご案内

※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします
サービス拠点への電話は、修理受付窓口でお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービス認定店）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付窓口にご確認ください。

●北海道地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆ 北海道サービスセンター	FAX	011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX	0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX	0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX	0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆ 東北サービスセンター	FAX	022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX	023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX	024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX	019-656-7648	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX	017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX	0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野3-16-8
秋田サービス認定店	FAX	018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目345-1

●東京都内

受付　月～土　9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

世田谷サービスステーション	FAX	03-5357-0770	〒156-0055	世田谷区船橋5-28-6　吉崎ビル1F
北東京サービスステーション	FAX	03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4　第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX	042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1F

●関東･甲信越地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆千葉サービスステーション	FAX	047-773-9354	〒275-0016	習志野市津田沼3-20-22
☆北関東サービスセンター	FAX	048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
水戸サービス認定店	FAX	029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
宇都宮サービス認定店	FAX	028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-21
群馬サービス認定店	FAX	0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
新潟サービス認定店	FAX	025-374-5756	〒950-0982	新潟市中央区堀之内南1-20-11
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX	0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆南関東サービスセンター	FAX	045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
神奈川西サービス認定店	FAX	046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53　中山ビル1F
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX	04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX	0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX	026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX	055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆中部サービスセンター	FAX	052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX	0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX	059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX	058-274-5256	〒500-8384	岐阜市薮田南4-2-10
静岡サービス認定店	FAX	054-236-4063	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-17-17
沼津サービス認定店	FAX	055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX	053-422-1401	〒430-0912	浜松市中区茄子町355-1
金沢サービス認定店	FAX	076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1　K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX	076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX	0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆関西サービスセンター	FAX	06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
神戸サービス認定店	FAX	078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX	0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土1-126
和歌山サービス認定店	FAX	0734-46-3026	〒641-0014	和歌山市毛見1126-4
京都サービス認定店	FAX	075-644-7975	〒601-8444	京都市南区西九条森本町4　イッツアイランド1F
奈良サービス認定店	FAX	0742-50-0889	〒630-8141	奈良市南京終町1-174-2
福知山サービス認定店	FAX	0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国･四国地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆中四国サービスセンター	FAX	082-534-5859	〒733-0003	広島市西区三篠町2-4-22 NKビル1F
岡山サービス認定店	FAX	086-250-2724	〒700-0975	岡山市北区今3-10-10　備前ビル1F
松江サービス認定店	FAX	0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX	0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX	0857-28-8011	〒680-0934	鳥取市徳尾422-2
徳山サービス認定店	FAX	0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービス認定店	FAX	087-813-6112	〒760-0080	高松市木太町862-1
徳島サービス認定店	FAX	088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階107号
高知サービス認定店	FAX	088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX	089-911-5608	〒791-8013	松山市山越5-12-8

●九州地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆九州サービスセンター	FAX	092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-1-9　ヤマエ博多駅南ビル1F
北九州サービス認定店	FAX	093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX	092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
西九州サービス認定店	FAX	0952-20-1991	〒840-0201	佐賀市大和町大字尼寺2688-1
長崎サービス認定店	FAX	095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX	096-331-3323	〒861-2118	熊本市花立4-9-31
大分サービス認定店	FAX	097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
宮崎サービス認定店	FAX	0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1
鹿児島サービス認定店	FAX	099-201-3803	〒890-0034	鹿児島市田上6丁目29-55

●沖縄県

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

沖縄サービス認定店	TEL	098-987-1120	〒902-0073	那覇市上間413　琉電アパート1-5
	FAX	098-987-1121		

平成23年7月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

安全上のご注意

● 安全にお使いいただくために、必ずお守りください。

● ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の方々への危害や財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。

図の中に具体的な注意内容が描かれています。



⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。

図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行動を強制したり指示したりする内容を示しています。

図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。



異常時の処置



・万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



・万一、内部に水や異物等が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



・万一、本機を落としたり、カバーを破損した場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置



・電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



・電源コードの上に重いものを載せたり、コードが本機の下敷きになったりしないようにしてください。コードの上を敷物などで覆うと、気づかずに重いものを載せてしまうことがあります。重いものを載せるとコードが傷ついて、火災・感電の原因となります。



・放熱をよくするため、他の機器や壁等から間隔をとり、ラックに入れる場合はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。



・付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。



・本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用環境



・この機器に水が入ったり、ぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



・風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



・表示された電源電圧（交流100ボルト 50 Hz/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



・この機器を使用できるのは日本国内のみです。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法



・本機の上に花びん、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



・ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



・本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。



・本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



・電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。



・雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

設置


・電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。


・電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。


・ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。


・本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。


・テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。


・本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。


・本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

異常時の処置


・電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。


・電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。


・移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。


・本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。


・窓を閉め切った自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法


・長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。


・本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。


・旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池


・指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。


・電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(+)マイナス(ー)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。


・長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。


・電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検


・5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。


・お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

本機の使用環境について
本機の使用環境温度範囲は5 ℃~35 ℃、使用環境湿度は85 %以下(通風孔が妨げられていないこと)です。
風通しの悪い所や湿度が高すぎる場所、直射日光(または人工の強い光)の当たる場所に設置しないでください。
D3-4-2-1-7c_A1_Ja

使用上のご注意

電源コードについての注意

電源コードは電源プラグ部を持って取り扱ってください。ショートや感電の原因となるため、コードを引っ張ってプラグを抜いたり、濡れた手で電源コードに触れたりしないでください。電源コードを傷つけないため、本機や家具の下敷きにならないようにしてください。電源コードは結び目を作ったり、他のコードと一緒に結んだりしないでください。

電源コードは、踏みつけられないように配線してください。破損したコードは火災や感電を引き起こします。電源コードに破損がないかを定期的に確認してください。

もし破損していたら、お買い上げの販売店へ交換を依頼してください。

本機のお手入れについて

- 磨き布や乾いた布で、表面のほこりや汚れを拭き取ってください。
- 表面が汚れているときは、中性洗剤を水で5 ～ 6 倍に薄めたものに柔らかい布を浸してよく絞って、汚れを拭き取り、乾燥した布でから拭きします。家具用のワックスや洗剤は使用しないでください。
- 製品の表面がさびることがありますので、シンナー、ベンジン、殺虫剤などを製品にかけたり、製品の近くで使用しないでください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

技術資料

デジタル音声フォーマットについて

DVDやブルーレイディスクソフトのパッケージには以下のような表示がされていることがあります。
1枚のディスクに複数の音声が収録されている場合が多く、どの音声を聴くかを選択することができます。
（音声の選択方法はお手持ちのプレーヤーやディスクによって異なります。）



収録音声数

1.英　語（5.1chサラウンド）
2.日本語（ドルビーサラウンド）
3.英　語（DTS 5.1chサラウンド）

録音方式





音声記録方式

ドルビーデジタルはDVDの標準音声フォーマットであるため、単に「5.1chサラウンド」と記載されている場合は、「ドルビーデジタル(5.1ch)」であることを示します。

デコードとは　デジタル信号処理回路などにより、圧縮記録されたデジタル信号を、もとの信号に変換させる技術です。また、2chの音源をマルチch化させる演算技術をマトリックス･デコードと言い、5.1ch信号を6.1chに伸長させる技術もデコードと呼ぶことがあります。

ドルビー



高音質 ↑

入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
HDコンテンツ	＊Dolby TrueHD ＊Dolby Digital Plus	ディスクリート	高精細音声技術。HDMIケーブルで伝送可能。特にDolby TrueHDは、ロスレス符号化技術により最高音質を実現。
5.1ch（サラウンドバックchフラグ付）	Dolby Digital Surround EX	ディスクリート+マトリックス	サラウンドバックchを使用して、Dolby Digitalよりも臨場感を高めた方式
5.1chディスクリート	Dolby Digital	ディスクリート	DVD以降の代表的フォーマット
一般的な2ch ドルビーサラウンド	(Dolby Surround) Dolby ProLogic (IIx/IIz)	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

＊これらの音声は8チャンネル以上のチャンネル数をサポートしていますが、現在ブルーレイディスクおよびHD DVDのそれぞれの規格では、最大音声チャンネル数が8チャンネルに制限されています。

詳細な情報はドルビーラボラトリーズのホームページをご覧ください。
http://www.dolby.co.jp/

プロロジックIIx製品は、プロロジックIIxの持つさまざまな機能を、選択して搭載することが可能です。プロロジックIIx搭載、とキャッチフレーズされた商品でも、必ずしもまったく同じ機能を持っているとは限らないことにご注意ください。

DTS



高音質 ↑

入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
HDコンテンツ	· DTS-HD Master Audio · DTS-HD High Resolution Audio	ディスクリート	高精細音声技術。HDMIケーブルで伝送可能。特にDTS-HD Master Audioは、ロスレス符号化技術により最高音質を実現。
5.1ch（サラウンドバックchフラグ付）	· DTS-ES (Matrix/Discrete)	ディスクリート+マトリックス	サラウンドバックchを使用して、臨場感を高めた方式
5.1chディスクリート	· DTS (Surround) · DTS 96/24	ディスクリート	DVD以降の代表的フォーマット
一般的な2 ch DTSサラウンド	· Neo:6	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

詳細な情報はDTSのホームページをご覧ください。
http://www.dtsjapan.co.jp/

WMA

WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。本機ではWindows Media Playerによってエンコードされた、拡張子が「.wma」のWMAファイルを再生することができます。ただし、著作権保護のかかったファイルやエンコードするWindows Media Playerのバージョンによっては再生できないことがあります。

MPEG-2 AAC

MPEG-2オーディオの標準方式の1つで、BSデジタルや地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。高圧縮率ながら高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

■米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5,297,236	5,481,614	5,490,170
5,848,391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

MPEG-4 AAC

AACとは、「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2、MPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。AACデータは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。本機では、iTunesによってエンコードされた、拡張子が「.m4a」のAACファイルを再生することができます。ただし、著作権保護のかかったファイルやエンコードするiTunesのバージョンによっては再生できないことがあります。

iPod/iPhoneについて

「Made for iPod」および「Made for iPhone」とは、それぞれiPodあるいはiPhone専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。このアクセサリをiPodあるいはiPhoneと使用することにより、無線の性能に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。

Made for

iPod

iPhone

Apple、iPod、iPod shuffle、iPod nano、iPod classic、iPod touchおよびiTunesは米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

HDMIについて



HDMI(High-Definition Multimedia Interface)とは1本のケーブルで映像と音声を受信するデジタル伝送規格です。ディスプレイ接続技術のDVI(Digital Visual Interface)を家庭向けのオーディオ機器用にアレンジしたものであり、高い帯域幅のデジタル内容保護(HDCP)を実現した次世代テレビ向けのインターフェース規格です。

本機では、HDMI対応機器とHDMI対応テレビなどを接続することで、圧縮されていないデジタル映像と音声(ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、またはリニアPCM)を1本のケーブルで伝送できます。ドルビーTrueHDやDTS-HD Master Audioなどのロスレスデジタル音声フォーマットにも対応しています。

本機はHDMI機器との接続を目的として設計されています。DVI機器に接続した場合、DVI機器によっては正常に動作しない場合があります。

本機は高画質規格のDeep Color出力やx.v.Colorの伝送も可能です。

FLACライセンスについて

対応フォーマットについて

各入力端子

各入力端子で対応している音声フォーマットは以下のとおりです。

入力端子	対応音声フォーマット
デジタル(光/同軸)	Dolby Digital、DTS、MPEG-2 AAC、PCM（サンプリング周波数: 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz）
HDMI	Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS、DTS-EXPRESS、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、MPEG-2 AAC、2chから最大8chまでのリニアPCMデジタル信号(サンプリング周波数: 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz)、SACD（DSD 2 ch信号）、ビデオCD、スーパービデオCD、DVDオーディオ(192 kHz含む)

USB/NETWORK入力

種別	拡張子	ストリーム		
MP3	.mp3	MPEG-1 オーディオ レイヤー 3	サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	32 kbps ~ 320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
WAV	.wav	LPCM	サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、96 kHz
			量子化ビット数	16 bit、20 bit、24 bit
			チャンネル数	2 ch
WMA	.wma	WMA2/7/8	サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	32 kbps ~ 320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
		WMA9	サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	32 kbps ~ 320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
AAC	.m4a .aac	MPEG-4 AAC LC MPEG-4 HE AAC (aacPlus v1/2)	サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	16 kbps ~ 320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
FLAC	.flac	FLAC	サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、96 kHz
			量子化ビット数	16 bit、24 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	—

- 著作権保護のかかったファイルは再生できません。
- 本機が対応している形式のファイルでも再生できないことがあります。
- 接続している機器の種類やソフトウェアのバージョンによって働かない機能があります。
- MPEG Layer-3音声復号化技術は、Fraunhofer IIS および Thomson multimediaからライセンスされています。

仕様

オーディオ部		
実用最大出力（JEITA、10 %、4 Ω、1 ch駆動時）	フロント	120 W/CH（1 kHz）
	センター	120 W（1 kHz）
	サラウンド	120 W/CH（1 kHz）
	サラウンドバック(Single)	120 W（1 kHz）
	サブウーファー	120 W（30 Hz）
定格出力（20 Hz ～ 20 kHz、0.5 %、8 Ω、1 ch駆動時）	フロント	65 W/CH
	センター	65 W
	サラウンド	65 W/CH
	サラウンドバック(Single)	65 W
全高調波歪(20 Hz ～ 20 kHz、50 W、8 Ω、1 ch駆動時)		0.06 %
保証インピーダンス		4 Ω ～ 16 Ω
入力端子(感度／インピーダンス)		200 mV/47 kΩ
SN比(IHF、ショートサーキット、Aネットワーク)		90 dB
ビデオ部		
信号レベル	コンポジット	1 Vp-p（75 Ω）
チューナー部		
FM	チューナー帯域	76.0 MHz ～ 90.0 MHz
	アンテナ	75 Ω不均衡型
AM	チューナー帯域	522 kHz ～ 1629 kHz
	アンテナ	ループアンテナ
デジタル入出力部		
HDMI端子		19ピン（5 V、100 mA）
USB（iPod)端子		USB2.0 Full Speed（Aタイプ）
ネットワーク部		
LAN端子		10 BASE-T/100 BASE-TX
電源部・その他		
電源		AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力		74 W
待機時消費電力(スタンバイ状態)		0.5 W (コントロール機能 ON)/ 0.45 W (コントロール機能 OFF)
外形寸法(幅 x 高さ x 奥行)		435 mm x 85 mm x 317 mm
質量(本体のみ)		4.3 kg

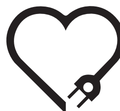
付属品

- セットアップ用マイク 1
- リモコン 1
- 単4形乾電池(動作確認用) 2
- AMループアンテナ 1
- FMアンテナ 1
- 電源コード
- 保証書
- 取扱説明書(本書)

お知らせ

- 仕様と外観は改良のため予告なく変更することがあります。

愛情点検



長年ご使用のAV機器の点検を!

このような症状はありませんか	・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ・電源コードにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。		ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

K026*_A1_Ja

本製品は家庭用オーディオ機器（オーディオ･ビデオ機器）です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用（例：店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両･船舶への搭載、屋外での使用など）はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号（連続波）などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S026_A1_Ja

ライセンス

第三者が提供するコンテンツについて

外部コンテンツのアクセスには高速インターネットへの接続が必要であり、プロバイダーへの登録や契約が必要となります。

第三者が提供するコンテンツのサービスは、予告なく、変更、中断、中止される可能性があり、パイオニアは、そのような事態に対していかなる責任も負いません。パイオニアは、外部コンテンツの提供サービスの継続や利用可能期間について、いかなる保証もしません。

ソフトウェアライセンス

ここでは、本機に使われているソフトウェアの利用許諾(ライセンス)について記載しています。正確な内容を保持するため、原文(英語)を記載しています。

expat

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd and Clark Cooper Copyright (c) 2001, 2002 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions: The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

libjpeg-6b

This software is based in part on the work of the Independent JPAG Group.

libpng

This copy of the libpng notices is provided for your convenience. In case of any discrepancy between this copy and the notices in the file png.h that is included in the libpng distribution, the latter shall prevail.

COPYRIGHT NOTICE, DISCLAIMER, and LICENSE:

If you modify libpng you may insert additional notices immediately following this sentence.

libpng versions 1.2.6, August 15, 2004, through 1.2.35, February 14, 2009, are

Copyright (c) 2004, 2006-2008 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.2.5 with the following individual added to the list of Contributing Authors

Cosmin Truta

libpng versions 1.0.7, July 1, 2000, through 1.2.5 - October 3, 2002, are

Copyright (c) 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.0.6 with the following individuals added to the list of Contributing Authors

Simon-Pierre Cadieux
Eric S. Raymond
Gilles Vollant

and with the following additions to the disclaimer:

There is no warranty against interference with your enjoyment of the library or against infringement. There is no warranty that our efforts or the library will fulfill any of your particular purposes or needs. This library is provided with all faults, and the entire risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with the user.

libpng versions 0.97, January 1998, through 1.0.6, March 20, 2000, are

Copyright (c) 1998, 1999 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.96, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

Tom Lane
Glenn Randers-Pehrson
Willem van Schaik

libpng versions 0.89, June 1996, through 0.96, May 1997, are

Copyright (c) 1996, 1997 Andreas Dilger

Distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.88, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

John Bowler
Kevin Bracey
Sam Bushell
Magnus Holmgren
Greg Roelofs
Tom Tanner

libpng versions 0.5, May 1995, through 0.88, January 1996, are

Copyright (c) 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

For the purposes of this copyright and license, "Contributing Authors" is defined as the following set of individuals:

Andreas Dilger
Dave Martindale
Guy Eric Schalnat
Paul Schmidt
Tim Wegner

The PNG Reference Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc. assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the PNG Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:

1. The origin of this source code must not be misrepresented.
2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.
3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors and Group 42, Inc. specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the PNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment is not required but would be appreciated. A "png_get_copyright" function is available, for convenient use in "about" boxes and the like:

printf("%s",png_get_copyright(NULL));

Also, the PNG logo (in PNG format, of course) is supplied in the files "pngbar.png" and "pngbar.jpg" (88x31) and "pngnow.png" (98x31).

Libpng is OSI Certified Open Source Software. OSI Certified Open Source is a certification mark of the Open Source Initiative.

Glenn Randers-Pehrson

glennrp at users.sourceforge.net

February 14, 2009

libxml2

Except where otherwise noted in the source code (e.g. the files hash.c, list.c and the trio files, which are covered by a similar licence but with different Copyright notices) all the files are:

Copyright (C) 1998-2003 Daniel Veillard. All Rights Reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE DANIEL VEILLARD BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of Daniel Veillard shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization from him.

libssh2

Copyright (c) 2004-2007 Sara Golemon sarag@libssh2.org

Copyright (C) 2006-2007 The Written Word, Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither the name of the copyright holder nor the names of any other contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

uuid

Copyright (C) 1999 Andreas Dilger

Copyright (C) 2007 Theodore Ts'o.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, and the entire permission notice in its entirety, including the disclaimer of warranties.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, ALL OF WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

OpenSSL

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written

permission, please contact openssl-core@openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;

LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL. This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.

If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

   "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"

   The word `cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:

   "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE and GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

This product includes the following software licensed for use under the terms of GNU General Public License v2, GNU Lesser General Public License v2.1 or LGPL v2.0.

- Linux Kernel Copyright(C) 2009 Linux Torvalds. Licensed Under GPLv2
- uClibc Copyright (C) 2000-2008 Erik Andersen. Licensed underLGPLv2.1
- DirectFB (c) Copyright 2001-2007 The DirectFB Organization (directfb.org) (c) Copyright 2000-2004 Convergence (integrated media) GmbH. Licenced under LGPLv2.1
- ffmpeg (c) Copyright 2000-2004 Convergence (integrated media) GmbH. Licenced under LGPLv2.1
- glib Copyright 2007-2008 The GTK+ Team. Licenced under GPLv2
- libalsa Copyright 2009 ALSA Project. Licenced under LGPLv2.1
- libid3tag Copyright (C) 2000-2004 Underbit Technologies, Inc. Licenced under GPLv2
- libmad Copyright (C) 2000-2004 Underbit Technologies, Inc. Licenced under GPLv2
- libsoup Copyright (C) 2005-2011 The GNOME Project. Licensed under GPLv2
- Lite 2002-2008 (c) Copyright 2001-2007 The DirectFB Organization (directfb.org) Copyright (C) 2000-2004 Convergence (integrated media) GmbH Licensed under LGPLv2.1
- dbus-glib Licenced under GPLv2
- gssdp Licenced under GPLv2
- GnuTLS Copyright (C) 2006, 2007, 2008, 2009 Simon Josefsson Copyright (C) 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005 Nikos Mavrogiannopoulos. Licenced under GPLv2
- gupnp Licenced under LGPLv2
- gupnp-av Licenced under LGPLv2
- libgcrypt Copyright 2000, 2002, 2003, 2004, 2007, 2008,2009 Free Software Foundation, Inc. Licenced under GPLv2
- gee Licenced under LGPLv2.1
- TabLib Licenced under LGPLv2.0
- vlc Copyright(C) 1998-2008 the VideoLAN team. Licensed under GPLv2
- rygel Licensed under LGPLv2.0
- dbus Licensed under GPLv2
- tslib. Licensed under LGPLv2.0
- FUSE Copyright (C) 2001-2007 Miklos Szeredi. Licensed under GPLv2
- libiconv Copyright (C) 2007 Free Software Foundation, Inc. Licensed under LGPLv2
- Libgpg-error Copyright 2003, 2004, 2005, 2006, 2007 g10 Code GmbH. Licensed under GPLv2
- busybox Copyright (C) 1998-2008 Erik Andersen, Rob Landley, Denys Vlasenko and others. Licensed under GPLv2
- faad Copyright (C) 2003-2005 M. Bakker, Nero AG. Licensed under GPLv2

You can get corresponding open source code from the following URL.

http://www.oss-pioneer.com/homeav/AVR

We are unable to answer any questions about the source code for the open source software.

NO WARRANTY

BECAUSE THE ABOVE PROGRAMS ARE LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAMS, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING, THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAMS "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAMS IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAMS PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAMS AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAMS (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAMS TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Please refer to each license for further information

"(www.gnu.org/licenses/gpl-2.0.html,

www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.1.html,

www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.0.html)"

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.

51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301, USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.
1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.
2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

   b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the

Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the program's name and an idea of what it does.

Copyright (C) yyyy name of author

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301, USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author

Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.

51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we

gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

   A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

   The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

   "Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) The modified work must itself be a software library.

   b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

   c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

   d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

   (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

   Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

   In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

   Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

   This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

   If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

   However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

   When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

   If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

   Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

   You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

   a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

   b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

   c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

   d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

   e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

   For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

   It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

   a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the library's name and an idea of what it does.

Copyright (C) year name of author

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either

version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1990

Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

さくいん

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

アルファベット

＜各窓口へのお問い合わせの時のご注意＞
「0120」で始まる フリーコール フリーコールおよび フリーコール フリーコールは、携帯電話・PHS・一部のＩＰ電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHS・ＩＰ電話などからご利用可能ですが、通話料がかかります。
正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただきますようお願いいたします。

ご相談窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■家庭用オーディオ/ビジュアル商品	フリーコール 0120－944－222	一般電話　044－572－8102
■ファックス	044－572－8103	
■インターネットホームページ	http://pioneer.jp/support/ ※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など	

修理窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付窓口

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話	フリーコール 0120－5－81028（ゴーパイオニア）	一般電話　044－572－8100
■ファックス	フリーコール 0120－5－81029	
■インターネットホームページ	http://pioneer.jp/support/repair/ ※家庭用オーディオ/ビジュアル商品はインターネットによる修理のお申し込みを受付けております	

沖縄サービス認定店（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話	098－987－1120
■ファックス	098－987－1121

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話	フリーコール 0120－5－81095	一般電話　044－572－8107
■ファックス	フリーコール 0120－5－81096	

平成23年7月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.045

パイオニア株式会社　〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

<5707-00000-569-0S>